

葛城市當麻複合施設整備基本計画

令和5（2023）年6月

葛城市

目次

第1章 はじめに	- 1 -
1 これまでの経緯	- 1 -
2 他計画等との関連について	- 2 -
第2章 複合化対象施設の概況	- 3 -
1 建物の全体配置について	- 3 -
2 当麻文化会館	- 4 -
3 当麻図書館	- 4 -
4 当麻庁舎(旧当麻分庁舎)	- 5 -
5 複合化について	- 5 -
6 全面改修について	- 6 -
第3章 各種分析・調査・課題の把握	- 7 -
1 計画エリアの分析	- 7 -
2 当麻文化会館の現況調査	- 10 -
3 建物の再使用の可能性	- 11 -
4 市民からの意見等まとめ	- 12 -
5 課題の抽出と検討事項	- 21 -
第4章 施設のイメージ像・整備方針	- 22 -
1 新しい複合施設が目指すあり方	- 22 -
2 整備方針	- 23 -
3 整備の方向性	- 25 -
4 整備項目	- 25 -
第5章 諸室の計画	- 31 -
1 施設構成の考え方	- 31 -
2 共用スペースの充実	- 32 -
3 諸室の計画	- 32 -
4 参考事例	- 37 -
5 増床の方法	- 39 -
6 機能の配置バリエーション	- 41 -
7 外構計画	- 42 -
8 事業費	- 44 -
第6章 管理・運営の考え方	- 45 -
1 従来の管理・運営の継続	- 45 -
2 複合化を生かした管理・運営の推進	- 45 -
3 幅広い利用者層に対応した管理・運営の推進	- 45 -
4 ICTを活用した事業・サービスの推進	- 45 -
5 管理運営方針の基本的な考え方	- 46 -
第7章 今後の検討の進め方と整備スケジュール	- 47 -
1 関連施策と連携した庁内横断的な検討	- 47 -
2 ソフトとハードの一体的な検討	- 47 -
3 市民参加による検討	- 47 -
4 民間との対話による検討	- 47 -
5 新型コロナウイルス感染症等への対応の検討	- 47 -
6 整備スケジュール	- 47 -

第1章 はじめに

1 これまでの経緯

旧當麻庁舎は、昭和43（1968）年に建築以来、當麻町、葛城市の庁舎として54年間行政サービスを提供してきましたが、耐震診断の結果「地震の震動及び衝撃に対し倒壊し、又は崩壊する可能性が高い」と判断されました。耐震補強も含め様々な検討を行いました。耐震補強をした場合、職員及び来庁者の動線を確保できないことや、エレベーター設置等のバリアフリー化が困難であること等の課題があり、除却が必要との判断に至りました。

令和3（2021）年1月からは、「當麻庁舎の危険性排除に伴う機能再編に関する特別委員会」の設置を受け、市議会とともに、旧當麻庁舎の移転先について、旧當麻分庁舎、當麻図書館、當麻文化会館、新庄庁舎、並びにそれぞれの建て替え等を含めた検討を行ってまいりましたが、大地震がいつどこで起こってもおかしくない状況であり、市民及び職員の安全に関わる万が一にも許されない課題であるため、一時的に當麻庁舎機能の移転を優先することとしました。

一時的移転に当たっては、當麻エリアの住民サービスを維持するため、ICTの活用を取り入れた総合窓口課を創設し、旧當麻分庁舎には総合窓口課並びにこども未来創造部及び教育委員会を移転、他の部署については同時に新庄庁舎に移転しました。令和4（2022）年1月より、旧當麻分庁舎は新たな當麻庁舎として運営を開始し、業務を継続しています。なお、令和5（2023）年2月には旧當麻庁舎の解体作業が完了しています。

當麻庁舎の再配置に当たっては、市議会とも協議を重ね、新庄庁舎（現在築35年）の更新を迎える時点で基本的には庁舎を一つとすることを念頭に、周辺施設の當麻図書館が築56年、當麻文化会館が築34年を経過し、共に老朽化が進行していることも鑑みながら、令和4（2022）年7月、當麻庁舎周辺施設も含めた再配置について「葛城市當麻複合施設整備基本方針」（以下、基本方針という。）を策定しました。

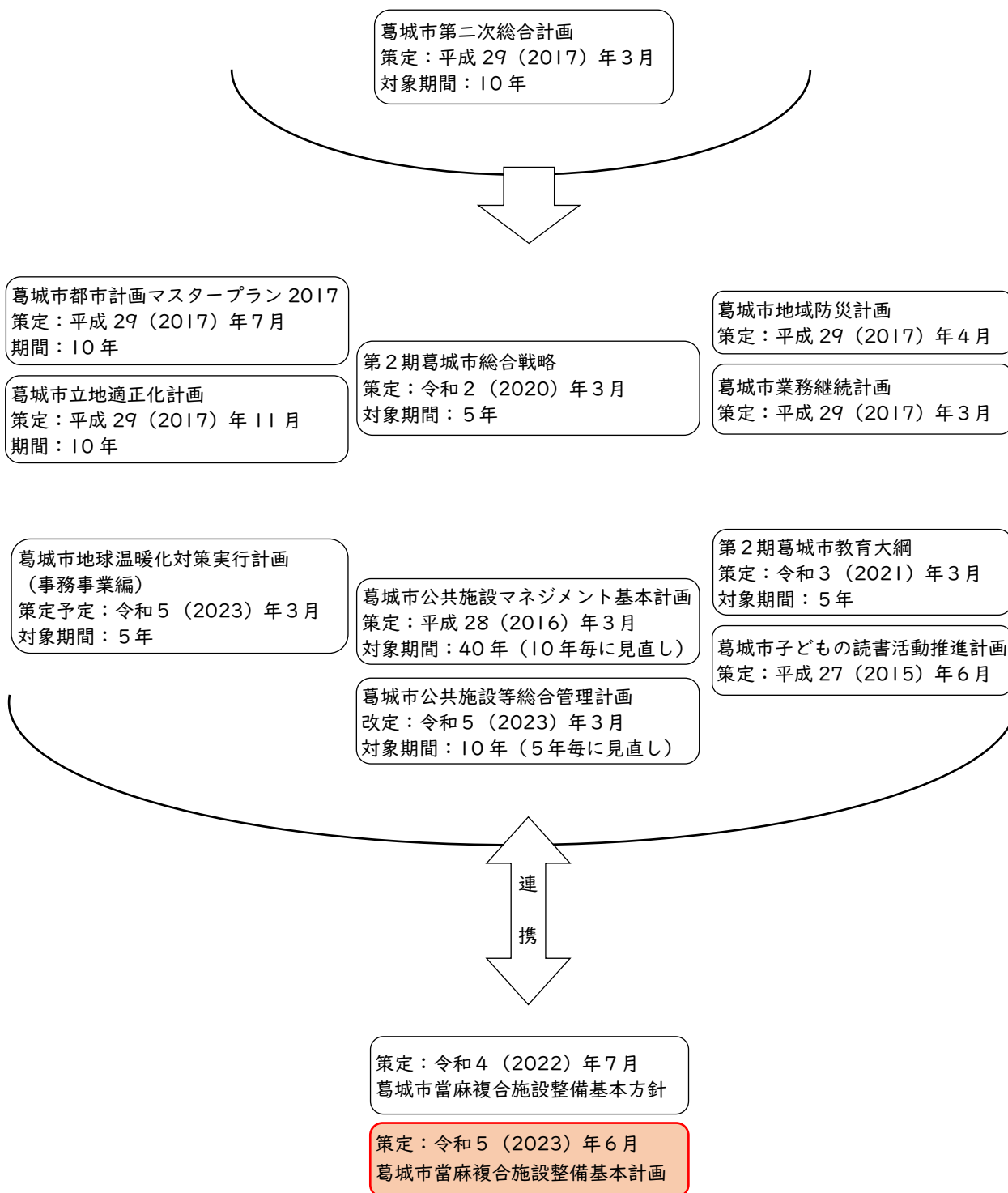
基本方針では、當麻庁舎周辺エリアに誰もが気軽に立ち寄れる地域の活動拠点を創出することを目的としつつ、公共施設マネジメントの観点も踏まえ、それぞれの施設を建て替えるのではなく、當麻文化会館を全面改修し、一つの施設に庁舎機能を始め、各要素を複合化することにより、新たなシンボルとなる複合施設として整備を進める考え方について記載しています。

複合化の実現に当たっては、現状の建物を単にきれいにするというだけではなく、建物の骨格を生かしつつ、部屋の配置や使い方を一新した、全面改修を想定しています。複合化による機能集約に加え、建物の骨格を利用することで、費用面やゼロカーボンシティ宣言の達成に寄与する環境面に配慮しつつ、補修や補強によって安全性と機能性を確保、また必要に応じて増築を検討する大規模な改修計画となります。

改修後は、今後も長く利用する施設に生まれ変わりますので、本計画では、基本方針の考え方を基に、時代やニーズに合った施設の再編が効率的・効果的に達成できるよう、市民アンケートや市民ワークショップ等を通して得られた、新しい複合施設に求められる機能や要素、またそのボリューム等について、設計への反映に向けた要求事項を整理します。

2 他計画等との関連について

葛城市當麻複合施設整備基本計画と関連計画との関係性は次のとおりです。各計画の概要については、資料編のとおりです。



葛城市當麻複合施設整備基本計画と関連計画の関係

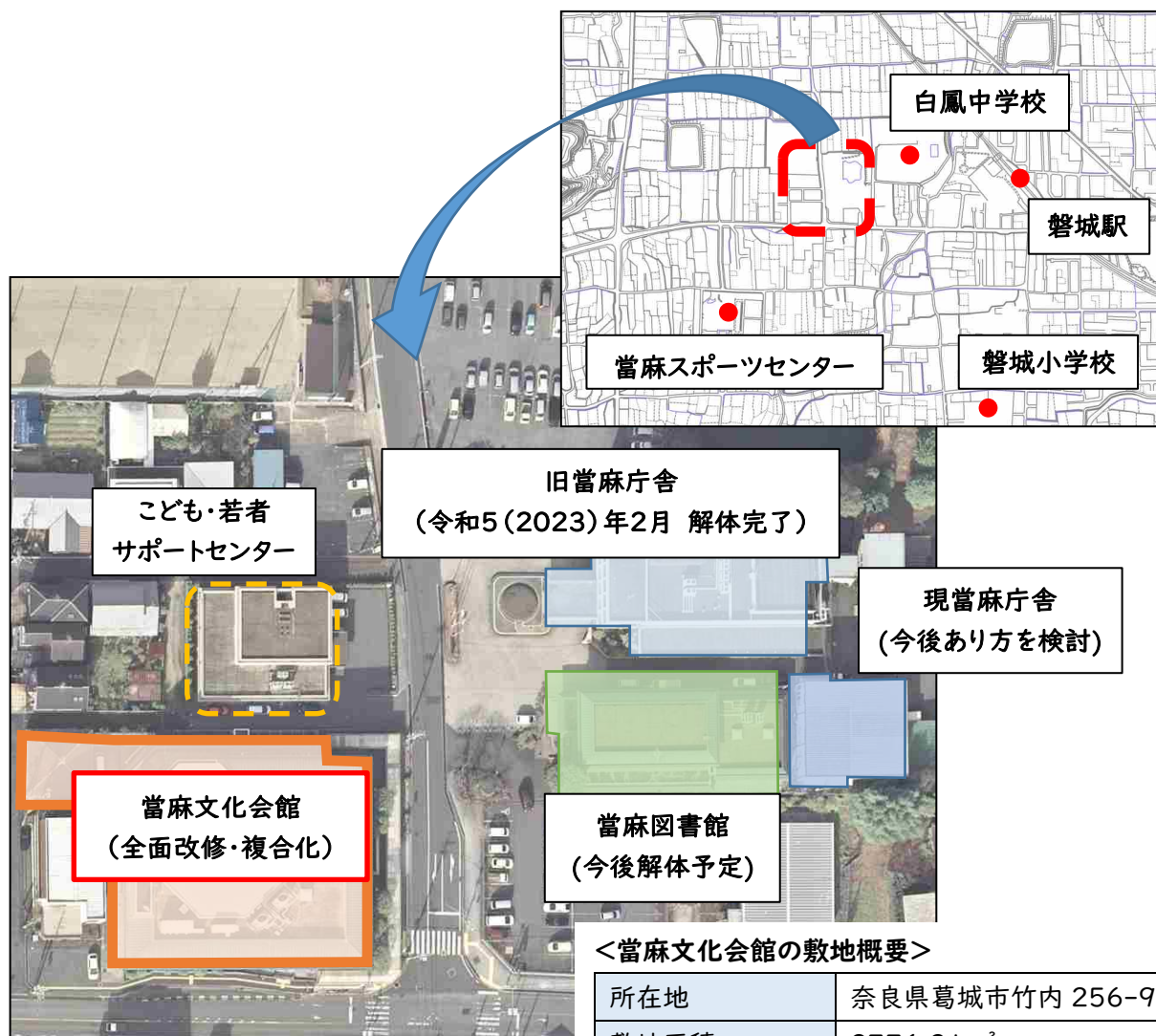
第2章 複合化対象施設の概況

1 建物の全体配置について

葛城市では、葛城市役所旧當麻庁舎を耐震性や老朽化等の課題から除却が必要と判断し、令和5（2023）年2月に解体工事を完了しました。また同様に、周辺施設の當麻文化会館、當麻図書館についても老朽化が進行しています。

このことから、當麻庁舎周辺エリアの拠点として位置づけることを目的としつつ、公共施設マネジメントの観点も踏まえ、當麻文化会館を全面改修し、一つの施設に各要素を複合化することにより、新たなシンボルとなる施設の整備を検討しています。

現當麻庁舎（旧當麻分庁舎）については跡地の利用方法も含め、今後あり方を検討します。



2 當麻文化会館

所在地	葛城市竹内 256-9
構造	鉄筋コンクリート造（一部鉄骨造）
高さ	13.0m
竣工年	昭和 63（1988）年
階数	地下1階/地上3階（塔屋付）
延床面積	3554.8 m ² （リハーサル棟を含む）
利用時間	9：00～22：00（ホールは 21：00 まで）※1
休館日	毎週火曜日、毎月第2、4水曜日、 12月28日から翌年1月4日
その他	リハーサル棟：高さ(4.8m)/竣工年昭和 63（1988）年 /鉄骨造/地上1階建/延床面積（81.0 m ² ）

【主要な部屋の利用率】 ※2、3

部屋名	面積	利用率	部屋名	面積	利用率
ホール	570.3 m ²	25%	メディアルーム	63.0 m ²	9%
控室	38.0 m ²	24%	調理実習室	83.8 m ²	5%
大研修室	132.0 m ²	28%	和室	59.0 m ²	29%
中研修室	84.0 m ²	31%	創作室	58.1 m ²	30%
小研修室	40.0 m ²	34%	陶芸室	51.9 m ²	12%
音楽室	73.8 m ²	49%	団体交流室	31.0 m ²	30%
セミナー室	63.4 m ²	41%	施設全体		27%

※1：諸室の予約については、「午前」(9:00～12:00)、「午後」(13:00～17:00)、「夜間」(18:00～22:00)の三つのタイムゾーンに分けて実施

※2：1日3コマ(午前、午後、夜間)×開館日数(282日)=100%で計算

※3：平成30(2018)年度の実績



<分析>

音楽室やセミナー室等、多目的に利用できる部屋の利用率は高く、次いで会議や研修等で利用する大・中・小研修室は中程度の利用率となっています。また、創作室や陶芸室等の専門性が高い部屋は、他の利用と併用が難しいため、利用率が低い傾向となっています。主要な部屋の同時利用率は、0～2室が最も高く、3室以上の同時利用となる場合は、いずれも低い傾向にあります。施設全体的に利用率が低く、利用目的や規模、現代のニーズに沿っていない等のミスマッチが生じていると考えられます。多様なニーズを踏まえたしつらえや、スペースの有効活用、適正規模の見直しが必要です。

3 當麻図書館

所在地	葛城市長尾 89-1
構造	図書館：鉄筋コンクリート造/閉架書庫：鉄骨造
高さ	図書館：8.6m/閉架書庫：2.7m
竣工年	図書館：昭和 41(1966)年、昭和 63(1988)年 増築/閉架書庫：平成 12(2000)年増築
階数	図書館：地上2階/閉架書庫：地上1階
延床面積	図書館：755.6 m ² /閉架書庫：25.4 m ²
利用時間	9：00～17：00
休館日	毎週火曜日、毎月第2、4水曜日、12月28日 から翌年1月4日、図書整理日、特別整理期間
蔵書数	蔵書数 101,294 冊※4 (一般書：60,107 冊 児童書：41,187 冊) 開架：閉架の割合 = 7：3

※4：平成30(2018)年度時点



<分析>

蔵書数・開架冊数が多く、閲覧スペースが十分でないため、ゆとりのない配架となっています。利用状況の分析からも、利用者の大半が貸し出しを利用しており、読書のみを目的とした滞在型の来館割合が低い傾向です。

4 當麻庁舎（旧當麻分庁舎）

所在地	葛城市長尾 85
構造	鉄骨造
高さ	庁舎：7.5m / 倉庫：6.5m
竣工年	平成 12（2000）年
階数	地上 2階
延床面積	庁舎：540.5 m ² / 倉庫：138.8 m ²
利用時間	8：30～17：15
休館日	毎週土・日曜日、祝日、12月29日から翌年1月3日
総合窓口課	利用者件数(令和4(2022)年1～12月)：20,082件



<分析>

市民が日常生活に必要な手続きに利用する施設であるため、総合窓口課については、恒常的に利用者が来庁されています。そのため、共用スペースが狭く、地域にひらいた場とするには余裕がありません。

5 複合化について

複合化については、建て替え等を含めた複数案について比較検討を重ねた結果、當麻文化会館を全面改修し、庁舎・図書館・文化会館の各要素を複合化する案⑤に優位性があり、内容について、更なる検討を進めるものと判断しています。

この複合化については、當麻庁舎周辺エリアに誰もが気軽に立ち寄れる地域の活動拠点を創出することを目的とした「葛城市當麻複合施設整備基本方針」で検討を行っています。

案	概要	費用	
		初期費用 (今後5年程度)	総費用 (令和22(2040)年頃まで)
①	旧分庁舎 → 倉庫 図書館 → そのまま 文化会館 → 庁舎と複合化 総面積：4800 m ²	650 百万円	5,210 百万円
②	旧分庁舎 → そのまま 図書館 → そのまま 文化会館 → そのまま 総面積：4800 m ²	580 百万円	5,180 百万円
③	旧分庁舎 → 倉庫 図書館 → 庁舎 文化会館 → 図書館と複合化 総面積：4800 m ²	900 百万円	5,410 百万円
④	旧分庁舎 → 倉庫 図書館 → そのまま 文化会館 → そのまま 新庁舎 → 小規模新築 総面積：5500 m ²	1,030 百万円	5,430 百万円
⑤	旧分庁舎 → 解体 図書館 → 解体 文化会館 → 庁舎・図書館と複合化（全面改修） 総面積：3500 m ²	2,180 百万円	2,810 百万円
⑥	旧分庁舎 → 倉庫 図書館 → 解体 文化会館 → そのまま 新庁舎 → 中規模新築 総面積：5500 m ²	1,540 百万円	4,800 百万円

※総費用には既存施設更新経費等を含む。

※⑤の全面改修とは、現在の當麻文化会館の躯体を長寿命化しつつ、内装外装等を一新した長寿命化改修、用途変更まで行うことを想定。

※費用は令和3（2021）年度調査時点での概算であり、今後変更となることがあります。

6 全面改修について

複合化の実現に当たっては、現状の建物を単にきれいにするというだけでなく、建物の骨格を生かしつつ部屋の配置や使い方を一新した、全面改修を想定しています。

建物の骨格を利用することで、費用面やゼロカーボンシティ宣言の達成に寄与する環境面に配慮しつつ、補修や補強によって安全性と機能性を確保します。また、必要に応じて増築を検討する、大規模な改修計画となります。改修後は、今後も長く利用する施設に生まれ変わりますので、現在抱えている課題の解決や、新たなニーズに答えられるよう、本計画において、新しい複合施設に求められる機能や要素、またそのボリュームについて、設計への反映に向けた要求事項を整理します。

<古い市庁舎を最新の図書館に改修した事例>

真庭市／真庭市立中央図書館



第3章 各種分析・調査・課題の把握

1 計画エリアの分析

新しい複合施設のあり方を検討するに当たり、どのような機能が施設に求められるのか、周辺エリアの可能性を踏まえ、将来に向けた方向性について<平面分析>及び<SWOT分析>の手法を用いて整理します。

(1) 平面分析

敷地周辺の現況のポイントを地図に配置し、維持すべき点・改善すべき点を把握します。分析の範囲は最寄り駅の磐城駅から対象施設までを対象とし、それぞれのポイントを『強み』『弱み』『機会』『脅威』の四つに分類して整理しています。



(2) SWOT分析 -要素の分類-

SWOT分析は、分析対象の環境を『内部環境』と『外部環境』に区分し、さらに『内部環境』を「強み」と「弱み」、『外部環境』を「機会」と「脅威」に細分し、四つの要因をクロス分析することで成長戦略を描く手法です。

施設の「強み」を生かすことに焦点を当て、そのためにどのような「機会」を利用できるか、また「強み」を生かす中で、どのように「弱み」が克服できるかを確認します。反対に、「弱み」や「脅威」を逆手に取った視点も大切です。

- 当麻庁舎・当麻図書館・当麻文化会館は、市民にひらかれた公共施設であり、行政サービスの拠点として認知されている
- 当麻エリアの主要施設（庁舎、図書館、文化施設）が1箇所に集約されており、アクセスも良く、利便性が高い
- 二上山や葛城山、岩橋山が並ぶ風景をどの場所からでも望むことができる
- 市民が地域・市の活動へ活発に参加しており、地域力が高い
- 土砂、水害等の自然災害が起こりうるエリアに指定されておらず、防災拠点として機能を継続可能である

強みを継続することが大切

周辺エリアの強み

施設再編を機に弱みを強みに変換

周辺エリアの弱み

- 住宅が密集している場所や旧道は、道路の幅員が狭いため、車での移動が難しい
- 街灯が少なく、農村広場にはナイター照明がないため、夜間は暗い印象がある
- 公共施設の設備・外観が古く、維持管理費の増大や利用の低下が発生している
- 高い蔵書数を確保した図書館があるものの、子どもたちや子育て世代にとっては手狭で、学生や現役世代の滞在率が低い

- 盆地であるため、一年を通して四季の変化を体感できる
- 住居地域があり、若い世代の人口流入がある [2021年統計：15歳未満年少人口15.27%（県内1位）、15～64歳生産年齢人口56.47%（同9位）、65歳以上老年人口28.26%（同36位）]
- 土地、上下水道及び学童保育の費用が低く、高校生まで医療費を無償としているため、市外から移住した市民が多く、子育てがしやすい環境である
- すみよさランキング
（東洋経済新報社）3年連続総合評価県内1位、近畿地区3位以内
- 当麻文化会館は、長寿命化により、まだ利用が可能である
- 大阪都心部から電車や車で一時間以内の場所に位置しているため、通勤・通学のアクセスが容易なエリアである
- 旧当麻町と旧新庄町が合併した市のため、文化施設・図書館が2つずつある

外部（市外・県外）からの機会

弱みを強みに変えるために機会を利用

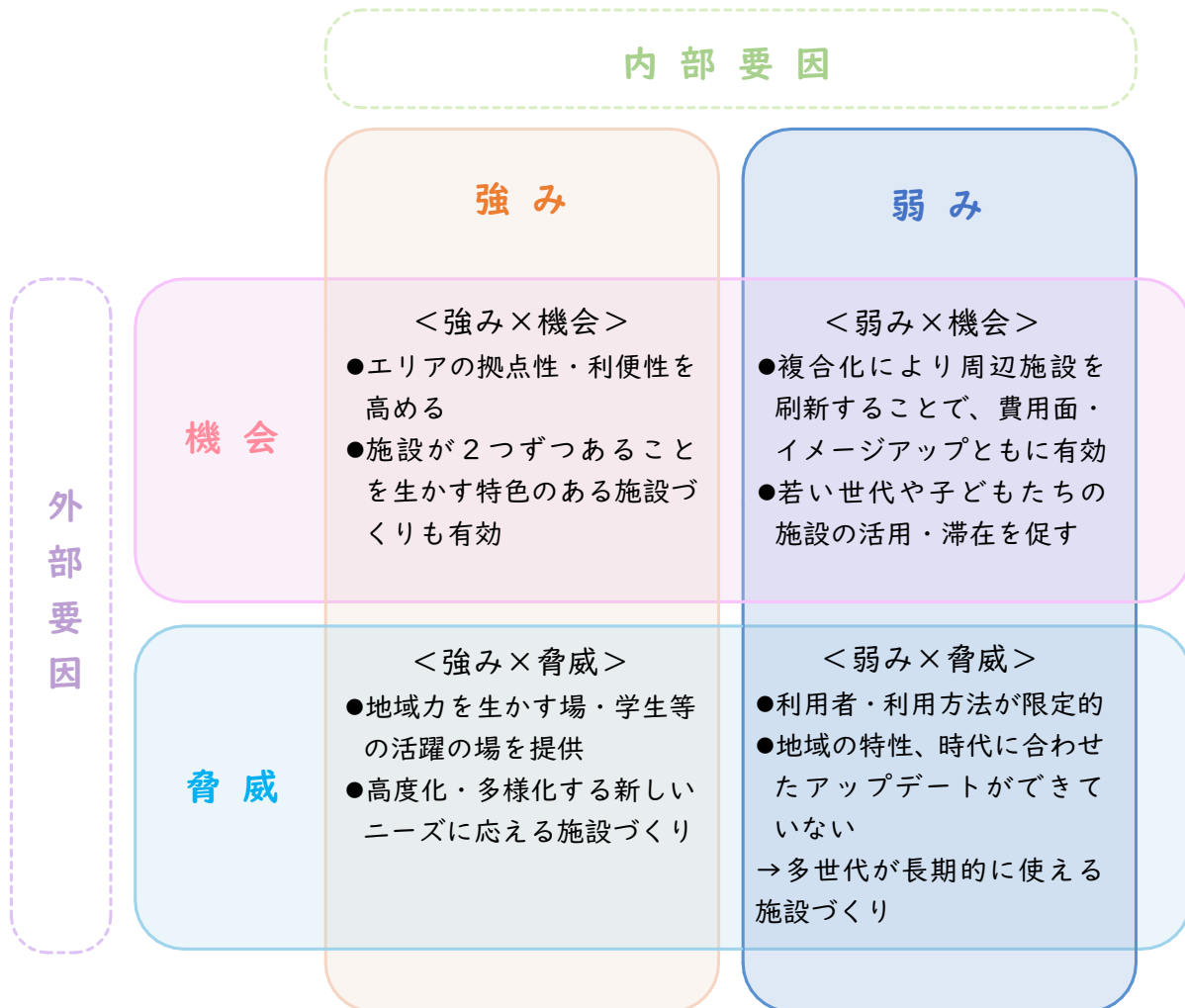
外部（市外・県外）からの脅威

「脅威」という外的要因に注意しつつ実行

- 地域の歴史や文化を伝える場が少ない
- 子育て世帯や若年層が望む魅力的な施設が周辺に少ないとの声がある
- ネットが普及し、タブレット端末等で本が読めるようになったため、紙媒体の本を手にとらず、図書館の需要が低くなる懸念がある
- 当麻エリアの施設が減少し、エリア価値が下がる懸念がある
- 住宅街の近くに商業施設が少ないため、車での移動が必要である

(3) SWOT分析 -クロス分析-

クロス分析は、前項で取り上げた四つの要因（強み・弱み・機会・脅威）をそれぞれで掛け合わせることで、選択すべき戦略を明確にする分析方法です。掛け合わせた結果は次のとおりです。



複合化を機に、時代にあった今までにない施設のあり方を模索できるチャンスと捉えることができます。

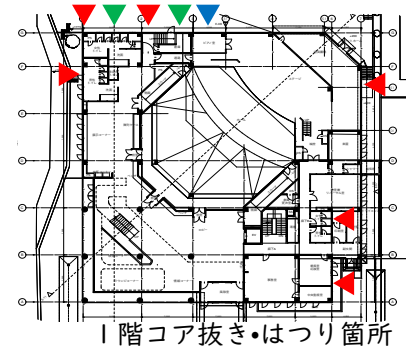
また、既存の機能に加え、今まで施設を利用したことのない市民が集うことのできる地域に根差した場づくりが魅力あるエリアにつながると考えられます。

2 當麻文化会館の現況調査

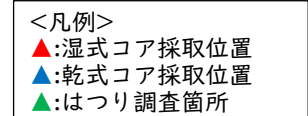
當麻文化会館の現況を目視等により調査を行い、使用状況や劣化状況を把握しました。

施設全体がほぼ建設当時のまま使用されており、大きな変更が加えられた箇所はありません。外壁仕上げはタイル張り・吹付塗装となっており、一部タイルやモルタルの浮きがあるものの、全体としては概ね良好な状態です。コンクリート躯体は、一部中性化が進んでいるものの、目立った劣化箇所はなく、良好な状態です。ただし、地下の機械室に漏水が見られ、屋上の防水層は劣化が進んでいることから、全面的な改修が必要です。

外構は、西側の搬入スロープに沈下が見られるため、改修が必要です。



1階コア抜き・はつり箇所



(1) コンクリート圧縮強度及び中性化調査

コンクリートの圧縮強度は健全な数値となっています。中性化は、鉄筋位置まで進んでいる箇所が見受けられますが、鉄筋のサビはない状態です。



外壁のひび割れ

(2) 鉄筋腐食度調査

鉄筋は著しく腐食しておらず、かぶり厚さも所定の厚さを確保している状態です。



圧縮強度・
中性化調査

(3) 鉄骨部材の劣化調査

ホール客席天井裏等の部材に発錆はなく、塗装も良好な状態です。また、溶接及びボルト固定等も良好な状態です。



鉄筋調査

(4) アスベストの調査

日常で使用する際は問題ありませんが、建材の一部に非飛散性のアスベスト含有建材が使用されていることがわかりました。解体の際は飛散する可能性があるため、専門業者による除去作業が必要です。



鉄骨劣化調査

(5) 電気・機械設備の現況調査

電気・機械設備の多くは耐用年数を過ぎているため、更新が必要な状態です。また、更新に当たっては、現行の耐震基準に適合させた設置が必要です。

(6) 舞台設備の現況調査

舞台照明、吊物機構や制御・操作機器等の舞台機構、舞台音響設備は経年劣化が進んでいるため、更新が必要な状態です。



屋上設備

(7) 熱・換気環境の調査

各室の温度計測の結果、空調機の能力は充足している状況です。ただし、ホールでは位置によって温度差が生じているため、環境改善が必要な状態です。また、一部の室の換気設備において法定換気量を満たしておらず早急な対応が必要です。



舞台設備

(8) 建物の関係法令等現況調査

現行の「建築基準法」等の法令基準に合わない一部既存不適格となっています。また、建物竣工後に前面道路の拡張が行われており、敷地境界線に不明確な部分があるため、再測量が必要です。さらに、隣接建物の一部が敷地内に越境している可能性があるため、対応が必要です。

(9) 耐震性能の調査

新耐震基準（昭和56（1981）年）以降に建設されていますが、その後の建築基準法等の改正にも対応した耐震性能を有するかは詳細な調査が必要です。今後の改修計画内容に応じて、所要の調査を行う必要があります。

(10) 耐用年数の調査

第三者機関による調査により、タイル面の耐用年数は100年以上との結果が出ました。ただし、外壁の塗装面の一部は中性化が進行しているため、測定不能であるとの結果が出ました。中性化が進行している部分でも塗装面の鉄筋に著しい腐食は見られなかったため、中性化対策を施すことで長期的な継続使用が可能と考えられます。

(11) 増築の可否

現状の建ぺい率は上限70パーセント（以下、「%」という。）に対して、60%程度であり、敷地の再測量が必要ですが、増築可能な建築面積は150平米（以下、「㎡」という。）程度と考えられます。また、増床可能な延床面積は、1500㎡程度と考えられます。（ただし、文化ホールの面積を3000㎡以下とする必要があります。）

3 建物の再使用の可能性

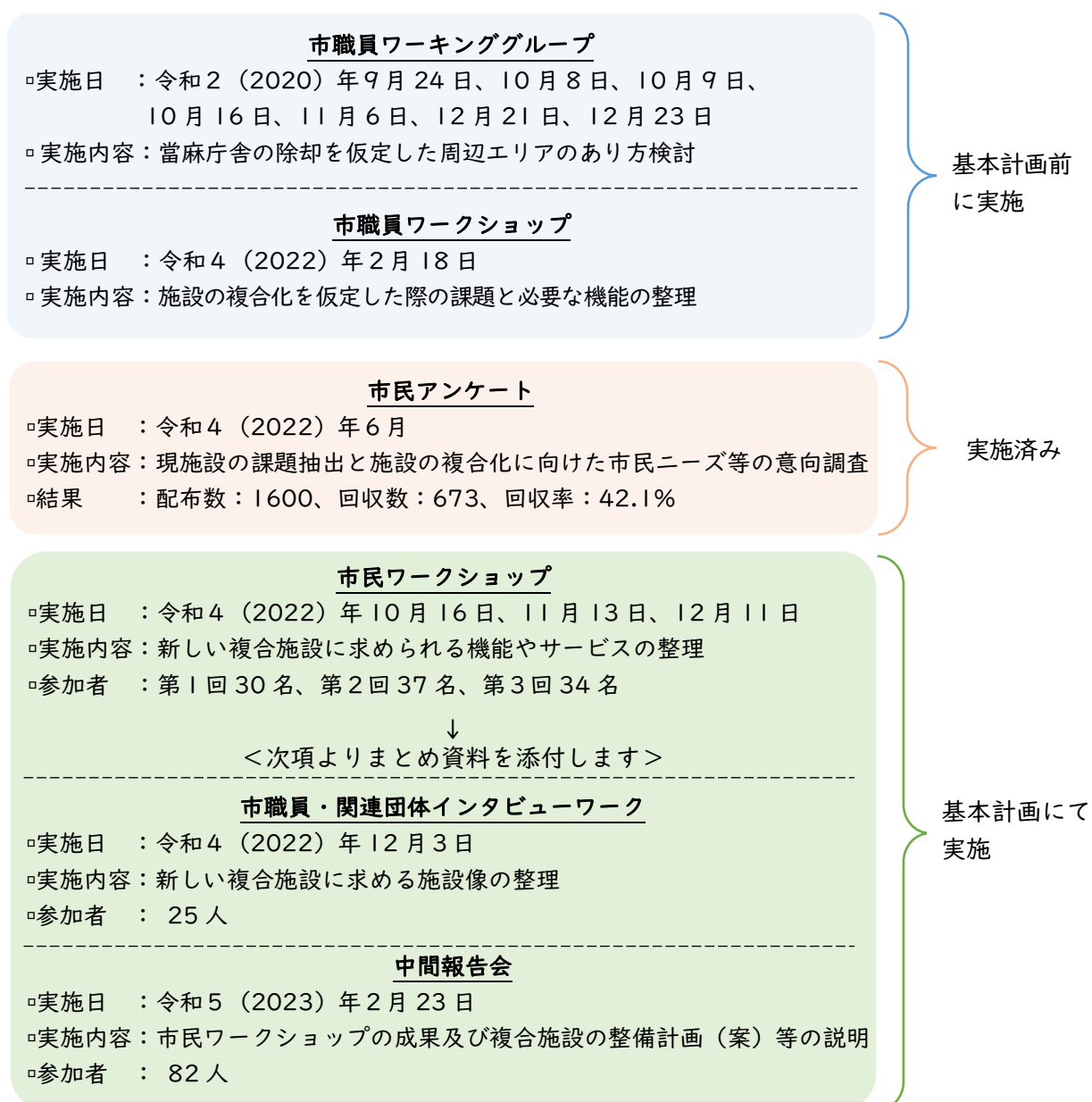
前2項の分析・調査の結果から、劣化箇所の補修・更新や法的不適合箇所の是正を適宜実施することで、建物を長期的に使用することが可能となり、増築・増床も可能であると考えます。

4 市民からの意見等まとめ

複合施設の再編を考えるに当たり、市では令和2年度よりアンケート及びワークショップ形式で市民からの意見をまとめてきました。文化会館・図書館を利用している団体及び市職員に加え、ふだん施設を利用していない市民等、幅広い層の意見を集めています。

アンケートは計1回、ワークショップは計3回を開催しており、対象施設の現状把握・課題整理から、出会う機能の組み合わせ・使い方等について意見を整理してきました。

基本計画を策定する上で実施した「市民ワークショップ」では、第1回に地域の特徴を再確認することで、複合施設周辺での人やものとの出会うの可能性を探りました。第2回では複合施設内で自然と人が集まる空間や出来事を検討し、更なる相乗効果が生まれる工夫や使い方を考えました。第3回ではこれまで想定してきた出会うを念頭に置いた建物内部のゾーニングを行い、具体的な施設機能の配置を検討しました。また「市職員・関連団体インタビューワーク」では、新たな複合施設に求める施設像の整理を行うため、インタビュー形式のヒアリングを行いました。最後に、新たな複合施設のワークショップを行った成果と計画(案)を説明するため「中間報告会」を行い、市民との意見交換の場を設けています。



テーマ「地域の特徴を確認しよう」

第一回かわら版 當麻複合施設整備基本計画ワークショップ

①まちづくりって楽しい



「元気なまちってなんだろう？」
「これからの公共施設はどんなものが望ましいだろう？」
今まで知らなかった施設に対する考え方、全国の事例などの説明を聞き、バランス感覚が大切だと知ることができました。
まちづくりは行政だけがやるものではない、そう考えるきっかけとなりました。

未来の葛城市はみんなのもの！

②キャラクター設定



自分自身もしくは架空のキャラクターを設定し、當麻エリアのどこで何をするかをグループで共有することで、まだ知らなかった地域の再発見と様々な人がいることを再確認し、複合施設が完成した後のイメージを膨らませました。

第一回 10.16 【SUN】 14:00~17:00

葛城市に新しい魅力を創造する。
これまでの歴史とこれからの歴史、みんなで葛城市を考えるワークショップ。



③行動を想像しよう



設定したキャラクターになりきり、どの施設で、どのお店で、どの公園で何の活動をするのか。周りの人と話せばこれまでと一味違う考え方が見えてくる。當麻エリアのポテンシャルを探りました。

キャラクター同士を掛け合わせた新しい出会い。グループ内で初対面の人も多い状況でしたが、楽しい出会いの可能性を発見できました。

④新しい出会い！



第二回テーマ
「出会いの場を考えよう」

日時
11月13日(日) 14:00~17:00

場所
當麻文化会館

※第一回ワークショップ
参加者数は「30名」でした。

次回ワークショップ

⑤グループ発表！



ワークショップの最後には各グループで話し合っただけで決めたグループワークのタイトルとその概要の発表を行いました。どのグループも色々な考え方がある、でもどれも間違いではない。たくさんの人の意見一つひとつが未来の葛城市をカタチ作るのだと感じました。

グループA

一期一会

出会いきっかけづくり。話しかける第一歩の機会となる。道の途中、施設の中でふだん出会わない人に会う。話しかけられるきっかけ。

<活動>

文化会館周辺：申請/手続き/投票/本を借りる/探す/
休憩/散歩/ランニング/練習/発表会/
展示会

磐城駅周辺：買い物/食事/サイクリング

体育館周辺：運動/ランニング

磐城小周辺：グランドゴルフ

その他：コンビニで買い物



<出会い>

文化会館：文化会館利用

図書館：図書館利用

その他：手続き、ランニング・散歩

グループC

日頃気づかない出会い

年齢、性別も違って、目的も利用時間も違う人たちは実は…気がつかないうちに会っていたかも



<活動>

文化会館周辺：本を借りる/申し込み/詩吟/調べもの/
子育てサークル/子どもと文化教室
参加/会議/グランドゴルフ/試合応援

磐城駅周辺：居酒屋/ふろ/ウォーキング/
会議/飲み会/郵便を出す

体育館周辺：健康体操/テニス/バトミントン/
ジム宣伝/友達とランチ

磐城小周辺：犬の散歩/散歩/ウォーキング

その他：万代に買い物/病院/JA 振り込み/
ゆうあいステーション

<出会い>

文化会館：サークル/教室参加/主催/会議

図書館：調べもの/本を借りる

その他：万代/喫茶/スポーツセンター

グループE

健康と趣味、スポーツでの出会い

グループのメンバーは高齢者が多い※希望の星8歳/施設の活用と出会いによる人間関係のふくらみ

<活動>

文化会館周辺：手続き/同行/ミッケ/新聞/本を読む/
借りる/ゲートボール/グランドゴルフ/
調理/ピアノ発表会

磐城駅周辺：阿倍野・大阪

体育館周辺：バトミントン/スポーツクラブ

磐城小周辺：初詣/七五三/ウォーキング/
孫の送迎/鉄棒/グランドゴルフ

その他：なし

<出会い>

文化会館：サークル活動後/発表会/ロビー

図書館：図書館

その他：グランドゴルフ/スポーツ
/参観/手続き/七五三/散歩

グループB

新しい出会いと既存の出会い

既存の建物で行う通常のイベントの出会いと異なるイベントを組み合わせたらどういいう出会いができるのか考えた



<活動>

文化会館周辺：散歩/演劇/将棋/絵画/喫茶/友達のお
供/漫画/読書

磐城駅周辺：食事/買い物

体育館周辺：キャンプ/サイクリング/ランニング/
ジム/子どもと遊ぶ/サッカー
/フットサル

磐城小周辺：授業参観、仮眠、通院

その他：なし

<出会い>

文化会館：お絵かき/授業参観後食事

図書館：図書館

その他：医院/学校/キャンプ/サッカー/駅前

グループD

グリーンカレーにつられて

地域で作ったヤサイを使って、カレーを作る/カレーのにおいにつられて落語・音楽に触れられる



<活動>

文化会館周辺：グリーンカレーをふるまう/手続き/
子どもを預ける/歌/音楽/落語/花を
展示/カフェで休憩/散歩/絵/書道

体育館周辺：ママさんバレー/プール/温泉/筋トレ

磐城小周辺：買い物

その他：畑作業/山で花摘/野菜作り

<出会い>

文化会館：グリーンカレー→野菜を使う→落語子ど
もが文化に触れる

図書館：落語読み聞かせ

その他：野菜フリマ/手続き筋肉を見せ合う

グループF

もっとゆっくり楽しめる場所が近くに欲しいな・・・

スタバ/映画鑑賞/ゲーセン/ラ
ウンドワン/コンビニ/アニメイ
ト/5万人以上入るアリーナ



<活動>

文化会館周辺：レポート/勉強/散歩

体育館周辺：ミニバス/テニス/バレーボール/バト
ミントン

磐城小周辺：はしご酒/推し/買い物/映画/カフェ/
出会い/服/ゲーム/通学/親戚の家

その他：コンビニで買い物/
自宅でゆっくり/釣り

<出会い>

文化会館：絵を褒められる

図書館：勉強

その他：駅で会う

テーマ「出会いの場を検討しよう」

第二回かわら版 當麻複合施設整備基本計画ワークショップ

葛城市に新しい魅力を創造する。これまでの歴史とこれからの歴史、みんなで葛城市を考えるワークショップ。

①前回の振り返り



第一回ワークショップでは、架空のキャラクターを設定し、客観的立場から當麻警城エリアでの活動と、そこから生まれるまだ知らない人やものとの出会いの可能性を考えました。新しい複合施設が、私たちの行きたいと思う「場」になれば、まちはもっと元気になる可能性が高いと感じました。

未来の葛城市はみんなのもの！

②「場」と「こと」



自然と人が集まる魅力的な施設（＝場）にするために必要な「こと」とはなにか。立派な建物が完成しても、使いたいと思う人がいなければただのハコになってしまいます。自分たちの活動や思いを考えることで、市民に真に求められる「場」を考える作業でした。

第二回 11.13【SUN】 14:00～17:00



③「こと」×「こと」 ＝相乗効果



作業2で整理した「こと」は相性の良い組み合わせで相乗効果生まれるのではないかと。使い方や自由度を工夫することで、今までにない「出会いや発見」が見つかりました。「休憩スペース」×「ストリートピアノ」＝「小さなリサイクル」！？

全国の複合施設の事例から班ごとのイメージに最も近い写真を選び、各班の施設像を想像しました。事例を知ることで具体的なイメージが浮かび始めました。

④公共施設での「出会いや発見」

第三回テーマ 「施設機能案を検証しよう」

日時 12月11日(日) 14:00～17:00

場所 當麻図書館

※第二回ワークショップ参加者数は「37名」でした。

次回ワークショップ

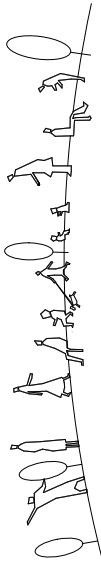
⑤グループ発表！



ワークショップの最後には、各班で検討した魅力的で自然と人が集まりたくなる複合施設のイメージとその概要の発表を行いました。各班で考えた施設像には共通した想いも多く、これからの時代にあるべき公共施設の姿が共有できました。

第二回ワークショップから見た施設の全体像

第二回ワークショップにご参加いただいたみなさまの声を、設計者の知識を基に実際の大きさや場所をイメージした上で、11の機能に仕分けました。
第三回ワークショップでは、この機能を使って、新しい施設のレイアウトを考えます。

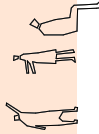
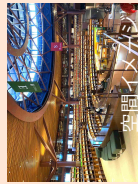


1 静かな図書機能

本の冊数が多く、夜遅くまで開いている静かな場

【図書館】

- ・魅力的な本の展示
- ・利用できる時間が夜遅くまで開いている
- ・本の冊数が多く、雑誌も種類が揃っている図書館
- ・バリアフリーが充実した場所
- ・学習室は静かな本の場所とは離して欲しい
- ・静かな学びができる環境（自習室等）
- ・本の種類が充実した図書館
- ・図書館には静寂な環境



2 開放的な図書機能

自習室、カフェ等が併設された多機能で多世代が利用できる開放的な場

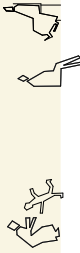
【図書館の機能】

- ・親子で利用しやすいスペース
- ・自習室が欲しい
- ・図書館内にパソコンルーム
- ・図書館とカフェ
- ・ほっとする飲み物、軽食



【ストレスを感じにくい、多機能な図書館】

- ・Wi-Fi付きの図書館、自習室
- ・開放感がある自習室
- ・学習、リモートワークができるネット環境



3 子供図書機能

親子で本を楽しめる場

【図書館、メディアセンター的機能】

- ・お話会の充実
- ・子育て世代が集える図書館
- ・学童保育以外に集まれる場所
- ・遊具付きの図書館

【子供を気にせず一人でゆっくりできる（子育て支援）】

- ・人の目が気にならない
- ・ひとりになれる
- ・行きたいときに開いている
- ・室内外で子供を見守りながら自分はゆったりと過ごせるような空間



4 ホール機能

映画鑑賞が可能で講演会や子供の発表や遊べる場としても機能する場

【講演会】

- ・アーティスト、著名人の講演会やパネルディスカッション
- ・未来のコブクロやゆずが生まれる自由な演奏スペース
- ・子供が発表できるスペース

【どんな人でも使える広いホール】

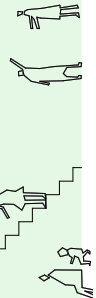
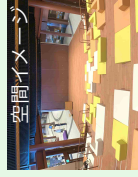
- ・広いイベントスペース、ホール（映画観賞可能）
- ・子供向けの遊べる場所やおもちゃが置いてある広い部屋
- ・バリアフリーがしっかりとしているホール（傾斜の緩い階段、目のつきやすい階段）
- ・ホールは中規模コンサートや発表会ができるように

【イベントスペース】

- ・不用品の交換会
- ・芸術作品の展示
- ・有名な芸術家や話題性のある物の作品展示

- ・室内遊園地、イベントコンサート
- ・発表会、有名人のイベントを企画

- ・制限がない（開館時間なども含めて）空間で、ニーズに合わせていつでも使える。
- ・図書館と併設し、場の連続性が見えるスペース。
- ・市民も自由に使えるようなギャラリー



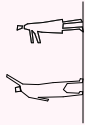
5 託児機能

親子同士の交流を促す場

【託児関係】

- ・雨の日でも子供が遊べるスペース
- ・小さい子供と一緒に連れてきても楽しめる部屋
- ・乳幼児のママたちが集まる場所
- ・子供向けの遊べる場所やおもちゃが置いてある広い部屋
- ・子供向けの紙芝居がきたり、発表することができる場

- ・親子でゆっくりできる空間
- ・乳幼児がくつろげるスペース
- ・子供を預かる場所
- ・学童保育以外に集まれる場所



8 多目的スペース(生涯学習)

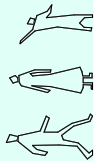
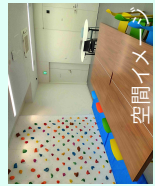
いろいろな文化活動に対応した場

【体験】

- ・体験教室 (楽器、書道、絵画等)
- ・室内スポーツの体験教室
- ・生涯学習講座を増やして欲しい
- ・趣味ができるスペース

【文化芸術】

- ・小さなグループで自由に使えるスペース (印刷機)
- ・利用者の目的に沿って、その時々に対応可能なスペース
- ・将棋などが置いてある部屋



6 フリースペース

気軽に自由に使える場

【誰もが使えるスペース】

- ・自由に声を出したり話したりするスペース

【自由な空間 (てんしほのような)】

- ・ストリートピアノをおけば良い!



- ・室内に公園

- ・BGMが聞こえる場所

- ・自然と一体感を得る空間

- ・長いソファア (自然を見ながら話せる空間)

- ・発表会、有名人のイベントを企画

- ・楽しそうな賑わいが見える場所

- ・開放的な場所

- ・居場所があり、そこから

- ・周りに展開できるスペース



9 キッチンスペース

子供食堂としても使える場

- ・毎日夜までの子供の居場所、子供食堂

- ・郷土料理が学べる場所



10 庁舎窓口

地域に密着した場

【庁舎】

- ・親切に説明してくれる市役所の人

【三二役所】

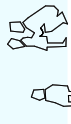
- ・市へ質問、やって欲しいこと、問題等を意見できる場所
- ・意見箱などの市民が意見をかける場所



7 防音スペース

防音設備を備えた賑わいが見える場

- ・ガラス張りのダンススペース
- ・ダンスができる鏡ばりの部屋
- ・カラオケ
- ・楽しそうな賑わいが見える場所
- ・自由に声を出したり話したりするスペース



11 その他

- ・外の風が入ってくるスペース
- ・居場所 (椅子、ベンチ)
- ・話せる所と静かな場所が分かれた綺麗な部屋
- ・井戸端会議に使え居場所
- ・本を外のベンチで読める
- ・屋上にゆったりとした庭園 (イベント可)
- ・小さくても機能を発揮している郵便局
- ・ATM

施設の運営・運用について

- ・時間：8:00-21:00ぐらまでの利用時間
- ・夜遅くまで利用可能
- ・ホール講座、学習会等を皆が企画段階から参加し、開催する
- ・図書館の運営は民間に任せないで欲しい
- ・民間企業の協力が必要
- ・生涯学習講座の様子をHPで知ることができる (空室情報も)

テーマ「施設機能案を検証しよう」

第三回かわら版 當麻複合施設整備基本計画ワークショップ

① 前回の振り返り



第三回ワークショップ冒頭では前回の振り返りとして、各班で出た意見を施設機能としてまとめた資料の説明を行いました。第二回目までは自分のやりたい活動を考える作業でしたが、第三回目では活動を実現させる場を考える機会です。市民のアイデアから施設機能のあり方を汲み取る、これからの時代の公共施設整備の進め方です！

② 機能の整理



第三回ワークショップでは、前回までの意見からまとめた11の施設機能を現状の當麻文化会館規模を想定した枠内に納めていく作業を行いました。どの階に何の機能があると良いか。どうしたら利便性が高まるか等、まずは大きさとられず各階のコンセプトを整理しました。

未来の葛城市はみんなのもの！

第三回 12.11【SUN】 14:00~16:30



③ 機能を配置する



②で整理した各階の大まかな機能を枠内に配置していきましました。枠に納まらない機能を上手く配置するために、分散させても機能するもの、分散させることでより高い効果が発揮されるものなど相互の関係性を考慮しながらはさみで形や大きさを調整しました。

出来上がった各階の配置案をもとに使い方、運用方法を提案しました。施設を使うことを想像しながら作業を進めることで、新たな気づきも生まれ、徐々にカタチになっていくことでより複合施設のイメージが湧いてきました！

④ 配置した機能の使い方提案

「市民説明会」

日時 2月23日(木・祝) (予定)

場所 當麻文化会館 (予定)

※第三回ワークショップ参加者数は「34名」でした。

今後のスケジュール

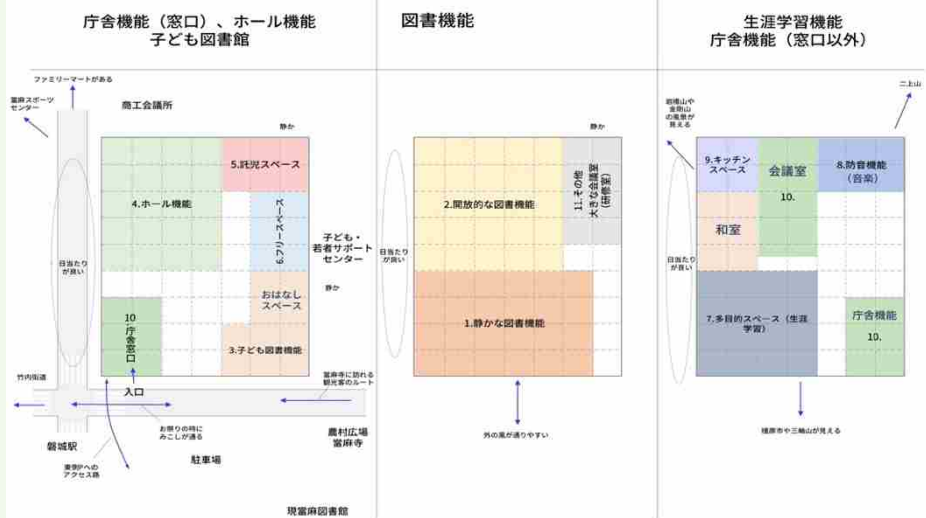
⑤ グループ発表！



ワークショップの最後には、各班で検討した複合施設の配置案と使い方の概要の発表を行い意見を共有しました。「今後はみなさんの目指す施設像を読み解きながら、不足している要素やさらなる可能性について検討を深めつつ、葛城市の未来を担う子どもたちを中心に、誰もが気軽に立ち寄れる居心地の良い場所になるよう計画案を作成してまいります。」

葛城市に新しい魅力を創造する。これまでの歴史とこれからの歴史、みんなで葛城市を考えるワークショップ。

A だれもがつどい、したしみあるフロア

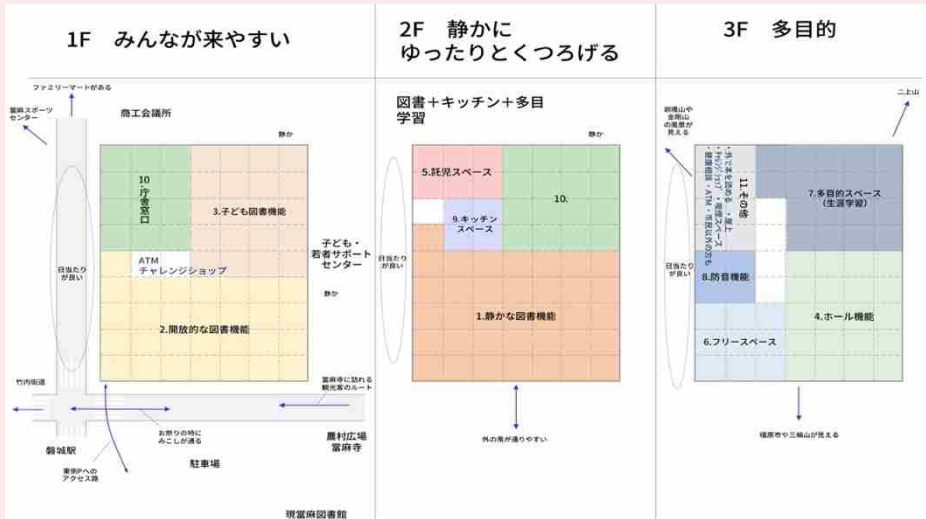


1F 利便性が高い
庁舎窓口/ホール機能/託児スペース/フリースペース/子ども図書機能 (おはなしスペース)

2F 図書機能が中心
開放的な図書機能/静かな図書機能/大きな会議室

3F 目的別の諸室フロア
キッチンスペース/防音機能/庁舎窓口/会議室/和室

B 誰もが使いやすい施設

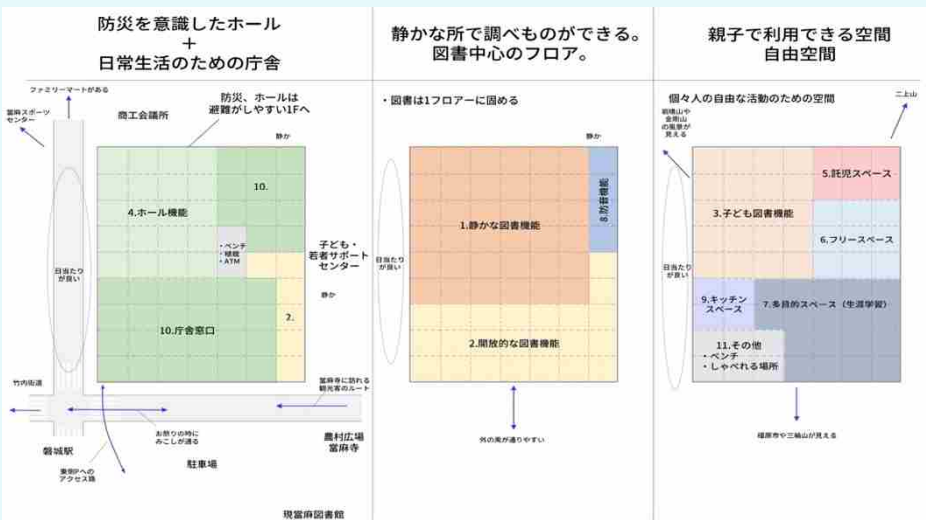


1F みんなが来やすい
庁舎窓口/開放的な図書館/子ども図書館 ATM/チャレンジショップ

2F 静かにゆったりくつろげる
静かな図書機能/庁舎窓口/託児スペース/キッチンスペース

3F 多目的
ホール機能/多目的スペース/フリースペース/防音機能/その他 (外で本を読める、屋上、チャレンジショップ、ATM/健康診断/喫煙スペース)

C みんなの思いがおさまりきれない複合施設

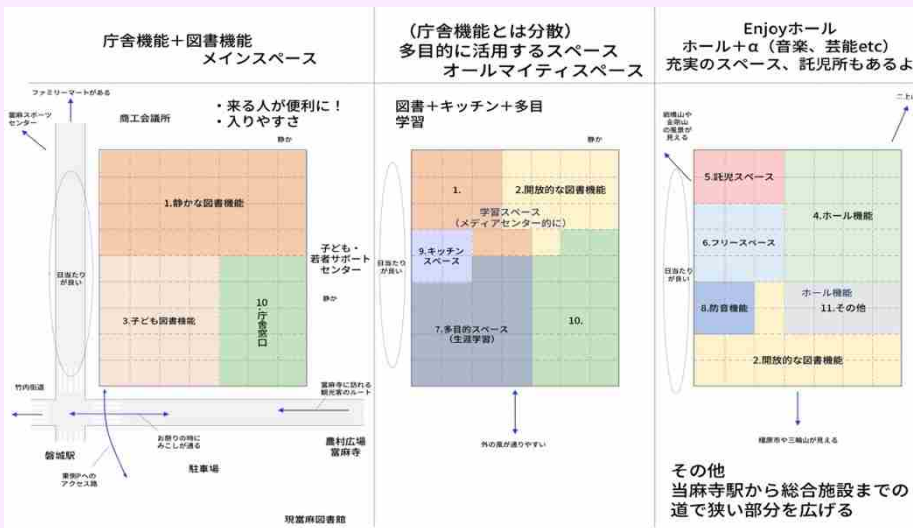


1F 日常生活+防災を意識
庁舎窓口/ホール機能/開放的な図書機能/ベンチ/植栽/ATM/子ども図書館

2F 図書機能中心フロア
静かな図書機能/開放的な図書機能/防音機能

3F 個々人の自由な活動
子ども図書館/託児スペース/フリースペース/キッチンスペース/多目的スペース/その他 (ベンチ/喋れる場所)

D 実益+多世代の出会い！豊かな出会い！&ニーズ！



1F 来人が便利に！入りやすさ

庁舎窓口/静かな図書機能/子ども図書機能

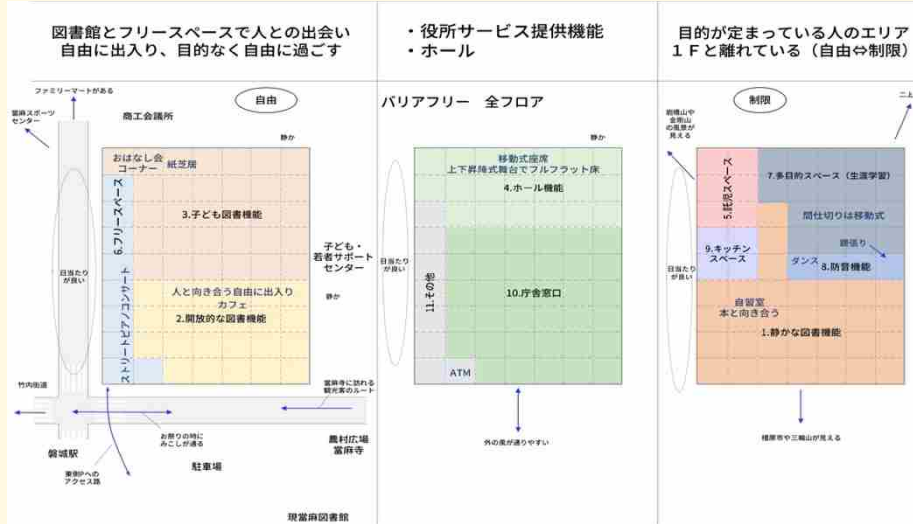
2F オールマイティスペース

多目的スペース/庁舎窓口/キッチンスペース/静かな図書機能+開放的な図書機能

3F 充実のスペース+託児所

ホール機能+その他(ホール拡大)/託児スペース/フリースペース/防音機能/開放的な図書機能

E 機能別に自由な出会いを楽しむ建物



1F 自由を求める空間

子ども図書館(おはなし会コーナー/紙芝居)/多目的スペース/ストリートピアノ/ミニコンサート)/開放的な図書機能

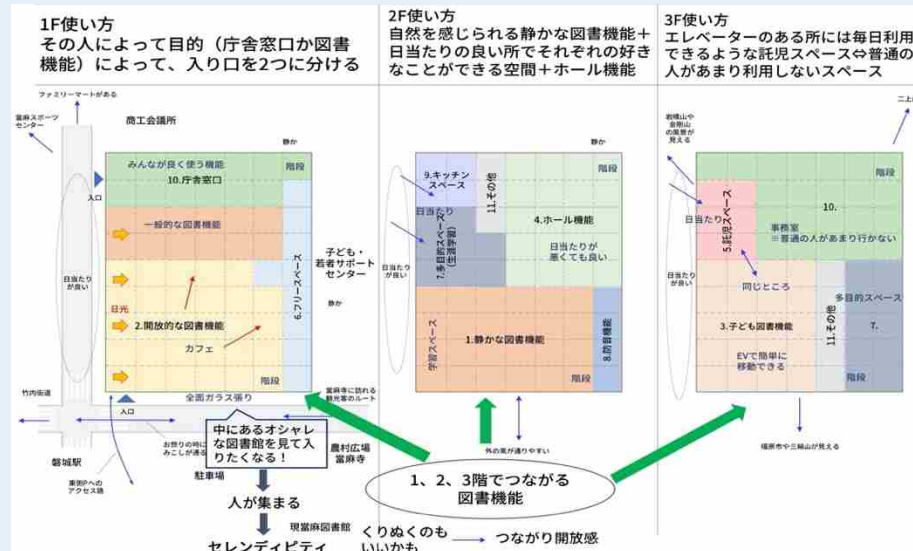
2F 役所サービス提供機能

庁舎窓口/ホール機能/その他(フリースペース/ATM)

3F 充実のスペース+託児所

多目的スペース/静かな図書館/防音機能(鏡張り)/キッチンスペース/託児スペース

F 場所の特性を生かした人が集まる複合施設



1F 目的別に自由に入入り

庁舎窓口/開放的な図書機能(カフェ)/静かな図書機能/フリースペース

2F 自然を感じられる

静かな図書機能/ホール機能/キッチンスペース/多目的スペース/防音機能/階段/EVで上下階のつながりを演出

3F 子ども向け+事務室

庁舎窓口(事務室+普通の人が余り行かない)/託児スペース/多目的スペース/子ども図書館/その他

5 課題の抽出と検討事項

現況調査やこれまでの取組の結果から、整備における課題と検討事項を整理しました。それぞれの課題は、令和5（2023）年度より本計画を受けた設計業務等の開始を予定していることを踏まえ、「本計画で設計への反映を求める項目…○」と、「設計又は運営検討段階で引き続き検討が必要な項目…★」に分類しています。

＜施設全体＞	
長寿命化に向けた大規模改修が必要	○
遅い時間まで利用可能で、気軽に立ち寄れる施設 ⇒管理・運営と並行して検討	★
時代のニーズの変化に合わせられる可変性・可逆性	★
カフェやイベントスペース等の地域交流のハブとなる機能 ⇒スペースを確保の上、管理・運営と並行して検討	★
子どもたちが天候に左右されず集えるスペース ⇒他機能の面積を圧迫しない規模で検討	○
屋外の環境（テラス等）を取り込んだつながりのある空間	○
子どもが自由に過ごせ、親も休息を取れる場所	○
誰にとっても使いやすいユニバーサルデザインに配慮	○
直営、指定管理の比較等を含めた運営方法の検討	★

＜ホール＞	
100～200人までの利用が多い ⇒ニーズに見合った使いやすい規模に最適化	○
設備の老朽化、映画鑑賞や発表会を開催できる場所の確保 ⇒規模や用途に見合った設備仕様の検討	○
多目的な利用を可能に ⇒間仕切りの可変性や、床や座席の仕様、その他機能と共存できる音環境等を検討	★
子どもの遊び場やイベントスペースとしても利用可能 ⇒開放性や隣接する機能配置の検討	★

＜生涯学習＞	
中央公民館・新庄文化会館との役割分担 ⇒既存の活動の継続に加え、活動の更なる展開や新しい活動ニーズにも配慮した部屋構成	○
部屋の大きさや種類によって稼働状況とのバランスが悪い	○
活動の種類毎に多目的に利用可能な部屋が望ましい	○
使用しないときは会議室や自習室としても共用	○
従来の活動を維持し、住民が自主的に参画できる運用方法 ⇒専用スペースを含め、管理・運営と並行して検討	★
活動内容がわかりやすく、気軽に利用しやすい環境 ⇒情報発信ツールを検討	★
定期的なイベントや講座の企画	★

＜凡例＞	
・本計画で設計への反映を求める項目……○	
・設計又は運営検討段階で引き続き検討が必要な項目 ……………★	

＜図書館＞	
新庄図書館との役割分担 ⇒公共図書館としての社会的役割に加え、本がより使われることを目標に、子どもたちに向けた本と出合える仕組みの検討等、市民の新たな期待に応える施設として整備	○
ゆとりある書架の配置 ⇒開架・閉架のバランスや什器への工夫を検討	★
蔵書数が増加する一方、本のダメージが進行している ⇒本の新陳代謝を高める方法を検討	★
ゆとりある閲覧室と自習室が常設されていない ⇒スペースの確保又は他室との空間共有を検討	○
ある程度空間を仕切れるおはなしの部屋（スペース）	○
従来の静寂な場と自由度の高い、新しい場の共存 ⇒静かな閲覧室として本と向き合う空間を確保/飲食や会話が可能で緊張感のない空間	○
親子で滞在できる図書館 ⇒子ども向け空間の充実やその他機能との連携	○

＜庁舎＞	
総合窓口課を軸に行政サービスを維持	○
子育て支援に関する部局/窓口との連携強化	○
防災機能の充実	○
相談室、会議室の不足 ⇒部屋の確保及び他室との共有方法を検討	○
20年後を目安に新庄庁舎と合わせた庁舎のあり方を検討 ⇒公共施設マネジメントを踏まえ、新庄庁舎が約55年を経過する時期を目安に検討を開始	○

第4章 施設のイメージ像・整備方針

1 新しい複合施設が目指すあり方

新しい複合施設では、地域の子どもたちや街の大人たちが共に使いやすく、身近に感じられ、ゆっくり時間が過ごせる場所が求められています。また、従来の機能に加え、新しい付加価値が求められていると同時に、ただ単に詰め込んで制約を設けることは求められていません。これらを一つの施設に共存させるには、つながり合うこと、混ざり合うこと、許容することが重要です。

1 気がつけば愉しんでいた、そんな場所と空間をつくります。

ふだんから施設に馴染みのある人も、そもそも縁のない人にとっても、心地よい空間の中で、自然と自分の時間を過ごしている。いろんな出会いを、これからの世代へとつないでいく場所となります。



2 時間の流れの遅い場所でもあります。

とにかく忙しい日々の生活の中で、時の流れを気にすることなく、趣味や読書に没入することができるのも複合施設の特権です。動的な場と静的な場の棲み分けができるようにします。



3 空間の新陳代謝を高めます。

変化し続けるニーズに合わせて、空間の構成に柔軟性を持たせることが必要です。一方で、これまで継続されてきた生涯学習活動を地域の財産として受け継ぐことも重要です。多様性を受け入れるとともに、利用者視点を意識したデザインの空間が求められます。



4 場と空間に余白を与えます。

部屋数や蔵書数は多ければ多いほど良い、ということではありません。詰め込めば詰め込むほど、利用する人の行動やその場の機能を制限することになってしまいます。



5 本が、あらゆる人や場所との結節点になります。

本はそれ自体が持つ多様性から、どんな人・どんな場所にも結びつけることができます。また、本とそれらの結びつきによって、より広い範囲に効果が届くものになります。



6 本の新陳代謝を高め、差し出し方を整えます。

時代の変化に合わせた、継続的な蔵書の更新は必要不可欠です。一方で、いつまでも古びることなく、読み継がれる本もあります。それらを取捨選択することが求められます。

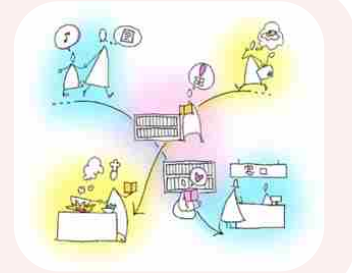
数少ない蔵書の中でも、一冊一冊の差し出し方を整えることで、より多くの人に本を届けることができます。それは、新たな出会いをつくることでもあります。



2 整備方針

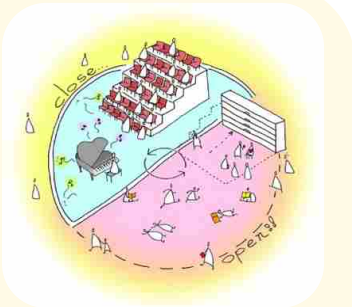
施設全体（偶然の出会いや発見（セレンディピティ））

様々な人々がお互いに特別に区別されることなく、気軽に心地よく滞在できるひらかれた場所であることに加え、例えば、調理室の傍に創作意欲を刺激する本が並んだり、市役所の手続きの合間に図書館を覗けたり、一つの複合施設に備わる複数の要素が混ざり合い、結びつくような、地域の人と活動を支える場所を目指します。



ホール（交差点となるひろば）

ニーズ分析に合わせた、使いやすい規模への縮小を想定していますが、ただ小さくするというのではなく、収納式の座席で広く自由な空間を確保することや、隣り合わせる部屋と共存できる音環境を工夫する等、多目的な活用を想定したしつらえを準備します。また、間仕切りを工夫し様々なパターンで利用できるようにすることで、多くの人に、同時に利用していただけるような工夫を行います。



例えば、ピアノの発表会に来館者がギャラリー参加できたり、図書館と隣り合わせた空間で著者のトークイベントがひらかれたり、自由な発想でみなさまの活動が交差する、小さくて大きい、ひろばのような空間づくりを目指します。

生涯学習（活動の継続と共有の場）

これまで継続されてきた生涯学習活動は、地域の財産ともいえる貴重な場となっています。新しい複合施設では、これらの活動が引き続き継続しやすく、加えて、より広く共有できることや、新たに参加しやすくすることに重点を置き、活動の見える化とニーズに合わせた可変性に工夫を凝らします。



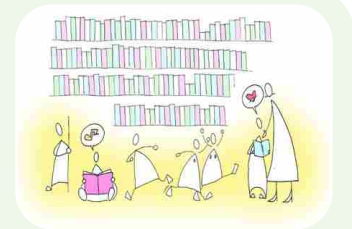
クラブ活動を継続してこられた団体のみなさまには、これまでの学びの成果や蓄積を、場を共有する次世代の子どもたちに伝え、参加のきっかけをつくることに、是非一緒に協力していただきたいと考えています。

すばらしい作品に触れたときの感動や、子どもの頃のように創作に熱中する感覚が、自然と共有できる場所にしたいと思います。

図書館

未来を担う子どもたちが、図書館を入り口として自分たちの可能性を広げられるよう、自然と本に手が伸びる、結節点を提供します。

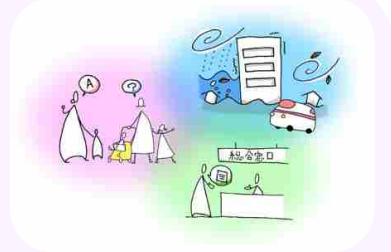
小さな子どもたちへは、少し体を動かしたり、物陰に隠れたり、フィジカル（身体的）に訴えかける遊びの要素と図書館が融合し、読書を体感・発見できるような仕掛けを用意します。成長した子どもたちや大人たちへは、自分たちの未来やまだ見ぬ世界へとつながるような、心が動く本の差し出し方や、心地よく、ふだんとは異なる時間の流れが感じられる読書環境を工夫します。



ただ多くの本を詰め込むのではなく、取捨選択することで新陳代謝を促し、より本が手に届きやすくします。

庁舎（行政サービス拠点の継続）

一つの窓口で多くの手続きが可能となった総合窓口を軸に、葛城市役所當麻庁舎としての行政サービスを継続します。また、職員が読み聞かせの場へ赴き、子育て相談に乗る等、教育委員会、こども未来創造部とともに、子育て支援に関する窓口との連携強化に取り組めます。



有事には防災時の拠点としての機能が確保できるよう、安全・安心に向けた機能の充実も必要です。新庄庁舎との役割分担については、公共施設マネジメントを踏まえつつ、新庄庁舎の更新を迎える時期を目安に、両庁舎を合わせたあり方の検討を行う予定です。

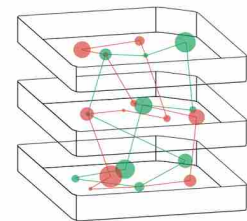
環境配慮

令和3（2021）年12月に「ゼロカーボンシティ」を宣言したことを受け、新しい複合施設の整備に当たっては、これからの先の未来を生きる子どもたちへ豊かな地球環境を残すため、複合化による機能集約及び改修工事の採用による地球環境への配慮に加え、効果の高い省エネルギー技術の導入について比較検討し、その達成に寄与していくことを目指します。

ここは、すべての子どもたちを祝福する場所です。
そして、街の大人たちに、ふだんとは異なる時間の流れを感じてもらおう場所でもあります。

加えて、誰もが身体的に弛み、楽しむことができる
居心地のよい場所にしたいと思います。

ここでは、それぞれの機能をつなぐ存在として、
本は他機能との結節点になると考えています。
複合施設の中では、本がいたるところに染み出し、あらゆる場所と人、
そしてこれからの子どもたちを、結びつけていくツールとなります。

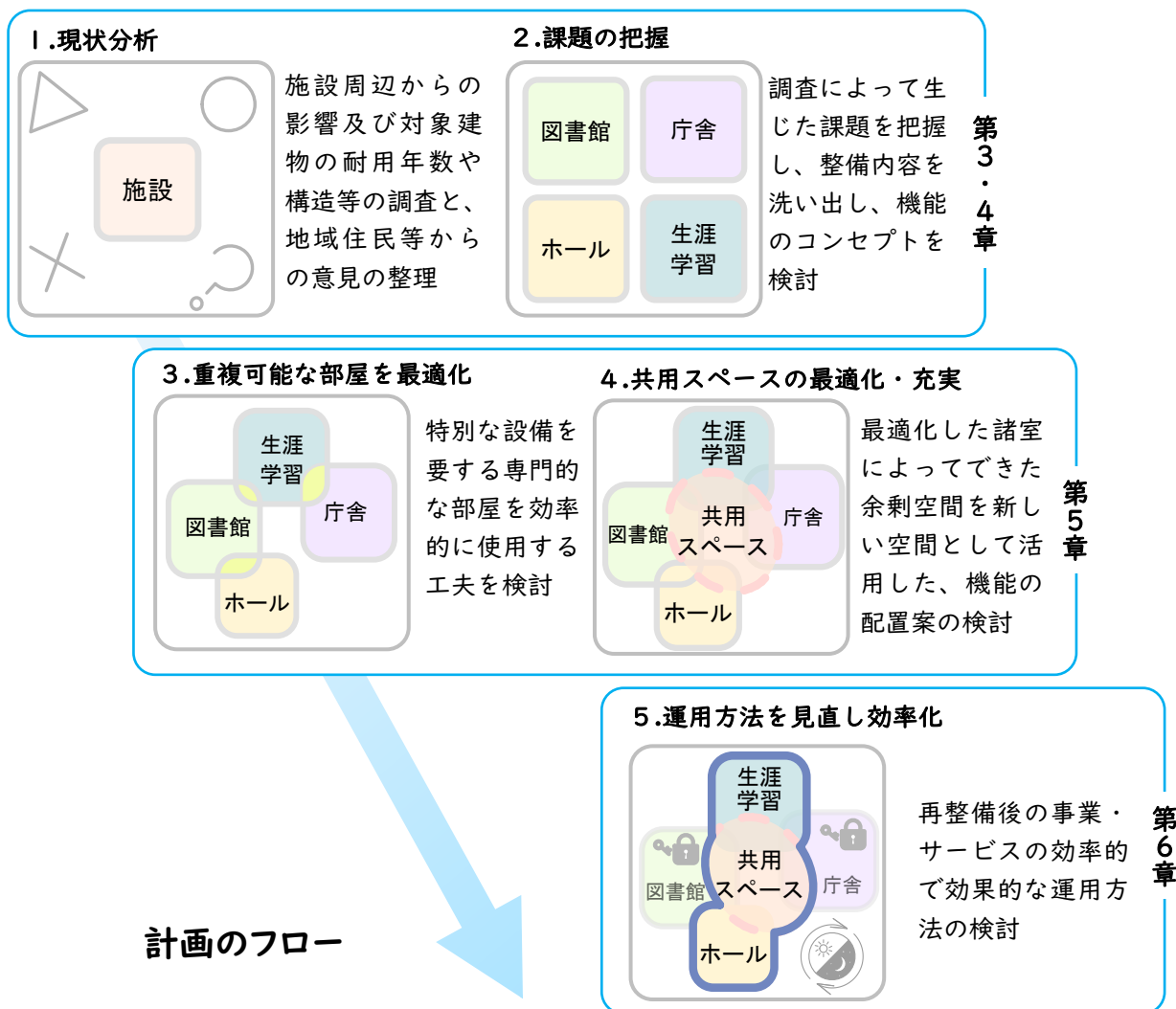


街に住む皆が気軽に訪れ、
気がつけば何かを読んでいたたり、新たな気づきを得られたりできる
気持ちのよいひらかれた場所。
そんな空間と時間をつくりたいと考えています。

3 整備の方向性

第3章の調査結果により、當麻文化会館を今後も長期的に利用可能な建物とするには、適宜補修や整備を実施することが必要であることがわかりました。また、抽出された課題を解決し全く新しい施設とするためには、現状の使い方をベースとした改装計画ではなく、各機能の規模や配置を全面的に一新した計画とする必要があります。必要面積に応じて増築を行い、建物の骨格を利用しながら安全性や機能性も確保した、大規模な改修計画となります。

施設の計画は、下図の手順に従って検討を進めていくことで、複合施設ならではのメリットを生かし、機能を集約しながらも魅力にあふれた施設とします。



4 整備項目

大きく三つのテーマに分けて方向性を定め、計画を検討するための軸とします。この三つの軸に基づき、効率的に効果を発揮する項目を中心に長寿命化対策を実施する計画とします。

<多様性>

子どもたちを始め、様々な人々がお互いに特別に区別されることなく、気軽に安心して活用でき、心地よく滞在できる施設とします。

<柔軟性>

新しく自由度の高いニーズに対応しつつ、完成後もニーズの変化に合わせた用途や機能、間取り、改修に対応可能な柔軟性や融通性を確保します。

<施設管理>

未来の50年を見据えた複合化・長寿命化により行政サービスを継続し、今後の公共施設マネジメントの道しるべとなる施設とします。

(1) 様々な来館者やシーンを想定した空間構成 <多様性><柔軟性><施設管理>**ア. スペースの再構築と有効活用**

現諸室の利用状況等を踏まえた規模等の適正化や共用化とともに、諸室の多機能化・高機能化・可変性の確保に加え、フリースペース等のニーズの高い、新たなスペースの創出により、スペースの再構築と有効活用を図ります。



ユニバーサルデザイン

イ. 諸室の活動の見える化

四つの機能が融合することにより、それぞれの利用者が自然に交じり合い、新たなつながりや、気づきを誘発するため、間仕切りの工夫等により、活動の見える化を図ります。



木質化

ウ. ユニバーサルデザイン化

障がい者、高齢者、子ども、子育て世代、外国人等の利用に十分配慮する必要があります。関係法令を踏まえたバリアフリー化はもとより、様々なマイノリティへの配慮を踏まえ、誰もが使いやすく、わかりやすく、安全でゆとりがあるユニバーサルデザイン化を図ります。



授乳室

エ. 木質化と緑化

旧當麻庁舎跡地との連続性や外構の緑地と一体感のある施設となるように、内装等の木質化を検討します。

オ. 市民活動や子育てをサポートする空間

利用者が学習や休憩、歓談等自由に利用方法を決めることができるフリースペースを各階に設置する他、市民活動の促進のため、打ち合わせや印刷作業を行うことができるスペースの設置を検討します。また、利用団体等のロッカーは、あり方を考慮した上で、規模や個数を検討します。さらに、子どもたちと親がゆっくりと滞在するための空間を検討します。

滞在空間¹**カ. 様々な人を対象とする設備**

車椅子利用者やオストメイト対応の多目的トイレの他、子ども用トイレ、おむつ交換台、授乳室等を設置し、各所には点字案内や、わかりやすいサインの掲示を検討します。



容易なメンテナンス

キ. メンテナンス性の向上

配管の増設スペースや更新する際の作業スペース等を確保し、耐久性の高い素材や防汚性のある素材の配管等、メンテナンスが容易な素材を検討します。

ク. 複合施設ならではの管理・運営

それぞれの空間・機能を誰もが気軽に使いやすく、設備は長期的に安定した利用を継続できるように、この施設に見合った管理・運営を検討します。

(2) 老朽化対策 <施設管理>**ア. 屋上防水の改修**

屋上防水は、一部を除き耐用年数が過ぎ、防水層の劣化が進行しているため、全面的な改修を検討します。

イ. 外壁の改修

外壁のタイルは、浮きやクラック等の範囲が狭く剥落の危険性が低いため、部分的な補修を行い、吹付塗装部分には中性化対策を実施した上で新しい外装を検討します。

ウ. 給排水設備の更新

給排水管等の給排水設備は、これまで部分的な給水管の更新履歴があるものの、大部分の耐用年数が過ぎ、老朽化が進行しているため、全面的な更新を検討します。

エ. ホール設備の更新

ホールの舞台機構・照明・音響は、更新頻度が低く老朽化が進んでいます。今後、ホールの用途・規模に適した設備の導入を検討します。

(3) エネルギー利用方針<柔軟性><施設管理>

葛城市地球温暖化対策実行計画(事務事業編)(令和5(2023)年3月策定予定)では、以下の四つを重点取り組みとしています。

當麻複合施設の整備に当たっては、次のア～キの方針に加え、下記重点取り組みとして定められた各事項(資料編に詳細を添付)について、所管課との協議を踏まえ、整備の段階に応じた検討を進めます。

<ゼロカーボンを見据えた野心的取り組み>

重点取り組み1：行政マネジメントによる削減

<組織・職員の取り組み>

重点取り組み2：建築物等の建設・維持管理での削減

重点取り組み3：電気使用量の削減

重点取り組み4：公用車燃料使用量の削減

ア. 行政マネジメントによる削減

當麻複合施設の整備では、當麻庁舎、當麻図書館、當麻文化会館の三つの施設が一つに集約できることから、公共施設の総量縮減に貢献する取り組みとなります。

イ. 既存躯体の活用による廃棄物、

CO₂排出量削減

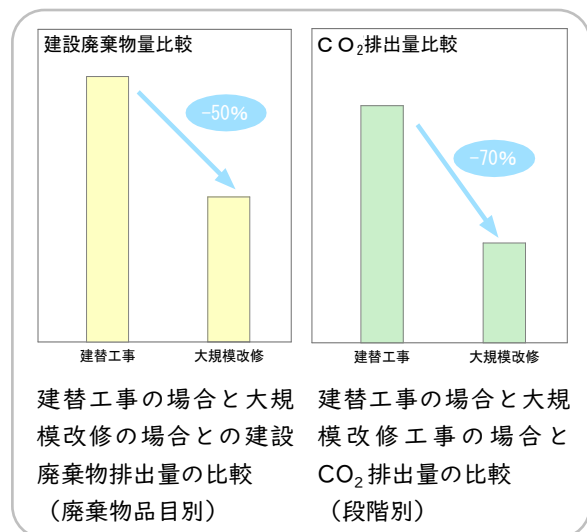
既存躯体の大部分を再利用した大規模改修の場合、建て替えに比べて産業廃棄物の発生を50%程度、CO₂の発生量も70%程度削減できるという研究結果が出ています^①。複合施設整備においても同様の手法を採用することで、廃棄物及びCO₂排出量の削減を目指します。

ウ. 自然の力の活用

採光・通風等、自然の力の活用に努め、自然光を取り入れることや館内の空気の流れを工夫することで、照明や中間期の空調負荷を抑制する対策を検討します。

エ. 断熱・遮熱対策

屋上・壁への断熱材の充填による断熱対策と外部サッシの複層ガラス化等による遮熱対策を検討します。



^① 東京大学清家剛研究室、首都大学東京角田誠研究室、東京理科大学真鍋恒博研究室の調査による

オ. 再生可能エネルギーの活用

重点取り組み1に記載のある新技術の導入検討も含め、施設の環境負荷の低減や防災機能の強化のため、太陽光発電設備の設置を検討します。



断熱材

カ. 電気・機械設備の更新

高効率機器の積極的な導入により、1次エネルギー消費量やCO₂削減に寄与する計画を検討します。

電気設備は、受変電設備の高効率化やLED照明・調光器、昼光・人感センサーによる点滅方式の導入、将来の機器等の更新・増設等に柔軟に対応可能な機器のレイアウトや電源計画等を検討します。



太陽光発電

機械設備は、施設全体の空調システムの中央方式から中央・個別方式への変更や、個別の部屋の利用状況に応じた換気の個別制御が可能な機器への変更等を検討します。また、トイレが古く、複合化後には利用者の増加も見込まれることから、節水型トイレ・感知式衛生器具を採用し給水使用量の削減を検討します。

キ. エネルギー消費量の適正な管理

供用開始後に、電気・機械設備の適正な運用や省エネルギー化に向けた運用改善を図るため、エネルギー消費量の可視化や設備の各種抑制システムの採用等による消費電力の低減に努めます。



省エネ対策

(4) 防災・BCP対策 <多様性> <施設管理>

〈周辺エリアの現状〉

當麻複合施設周辺エリアには、次の表に記載した各種防災機能が配置されています。葛城市地域防災マップ（令和2（2020）年12月作成）では、周辺エリアは浸水想定区域に指定されておらず、複合化に当たっては、當麻庁舎及び當麻文化会館が持つ機能を合わせて移設し、周辺エリア内で同等の防災機能が維持できる計画とします。

【當麻複合施設周辺にある防災機能】

當麻文化会館	AED、公衆電話
當麻庁舎	AED、防災自販機、公衆電話
農村広場	場外離着陸場、防災倉庫
白鳳中学校	AED
白鳳中学校体育館	指定避難所

〈代替施設〉

葛城市業務継続計画（平成29（2017）年3月策定）では、葛城市役所新庄庁舎が使用不能となった場合の代替施設に新庄健康福祉センターを、當麻庁舎が使用不能となった場合の代替施設に當麻文化会館を検討対象としています。

また同時に、代替庁舎リストとして第1候補に新庄健康福祉センターを、第2候補に當麻文化会館を、第3候補に歴史博物館を指定しています。

【代替庁舎リスト】

第1候補	新庄健康福祉センター
第2候補	當麻文化会館
第3候補	歴史博物館

<対策の検討>

當麻複合施設の整備に当たっては、葛城市業務継続計画において災害発生から概ね 72 時間を「市民の命をつなぐ」初期段階と定めていることを始め、様々な災害状況を想定し、新たに緊急時の要求に応えられる施設となるよう、所管課との協議を踏まえ、設計の各段階において次の各事項に配慮した防災・BCP対策を検討します。

- ①最低限のライフラインの確保（発災後 3 日間程度）
- ②自然光、自然換気ができる計画
- ③非常用発電機（規模の検討を含む。）
→供給対象はミーティングルーム 1、総合窓口課及びキッチンスペースの照明・空調・非常用コンセント、状況によってエレベーターを想定
- ④太陽光発電機の設置
- ⑤非常用汚水槽の設置
- ⑥受水槽等による水の備蓄（容量の検討を含む。）
- ⑦衛星電話の移設

（5）耐震性能向上 <柔軟性> <施設管理>

葛城市役所新庄庁舎、新庄健康福祉センター、當麻文化会館、歴史博物館は、それぞれ昭和 56（1981）年以降に建設された建物のため、新耐震基準を満たしていますが、大規模災害時には、備え付けられた非常用発電機的能力や稼働時間について停電復旧までの十分な燃料備蓄ができないこと等が課題となっており、事業継続が困難になる可能性があります。

當麻複合施設は、當麻庁舎機能及び當麻文化会館機能の複合化及び施設の更新とともに、當麻庁舎の耐震性能の課題が払拭できることから、災害時の役割を今後も長く期待される、より一層重要度の高い施設に生まれ変わります。

現状の當麻文化会館の用途では、耐震安全性の分類のうち、構造体Ⅱ類、建築非構造部材Ⅱ類、建築設備乙類が求められる水準となりますが、災害発生時には、災害対策本部事務局の置かれる新庄庁舎に続き、當麻庁舎は本部事務局・各部との連絡及び報告を始めとした対応が必要な施設に位置づけられていますので、新庄庁舎に準ずる機能を有する當麻庁舎が入居する施設として、構造体Ⅱ類、建築非構造部材Ⅱ類、建築設備甲類となるよう、より高い水準を満たす計画を検討します。

【耐震安全性の目標】

分類	活動内容	対象施設	耐震安全性の分類			
			構造体	建築非構造部材	建築設備	
災害応急対策活動に必要な施設	災害対策の指揮・情報伝達等のための施設	<ul style="list-style-type: none"> 災害時の情報の収集、指令二次災害に対する警報の発令 災害復旧対策の立案、実施 防災等の治安維持活動 被災者への情報伝達 保健衛生及び防疫活動 救援物資等の備蓄、緊急輸送活動等 	<ul style="list-style-type: none"> 指定行政機関^②が入居する施設 指定地方行政機関^③のうち、地方ブロック機関が入居する施設^④ 指定地方行政機関のうち、東京圏、名古屋圏、大阪圏及び大震法の強化地域にある機関が入居する施設^⑤ 	I類	A類	甲類
		<div style="border: 2px solid red; padding: 5px; display: inline-block;"> <p>【耐震安全性の目標】</p> <p>指定地方行政機関のうち、上記以外のもの及びこれに準ずる機能を有する機関が入居する施設 →<u>當麻庁舎が該当</u></p> </div>			II類	A類
	救護施設	<ul style="list-style-type: none"> 被災者の救難、救助及び保護 救急医療活動 消防活動等 	<ul style="list-style-type: none"> 病院及び消防関係施設のうち、災害時に拠点として機能すべき施設 病院及び消防関係施設のうち、上記以外の施設 	I類	A類	甲類
避難所として位置づけられた施設	被災者の受け入れ等	学校、研修施設等のうち、地域防災計画において、避難所として位置づけられた施設	II類	A類	乙類	
人命及び物品の安全性確保が特に必要な施設	危険物を貯蔵又は使用する施設	放射線物資若しくは病原菌類を貯蔵は使用する施設及びこれらに関する試験研究施設	I類	A類	甲類	
		石油類、高圧ガス、毒物、劇薬、火薬類等を貯蔵又は使用する施設及びこれらに関する試験研究施設	II類	A類	甲類	
	多人数が利用する施設	文化施設、学校施設、社会教育施設、社会福祉施設等 → <u>當麻図書館・當麻文化会館が該当</u>	II類	B類	乙類	
その他		一般官庁施設	III類	B類	乙類	

- ② 指定行政機関：災害対策基本法に基づき、内閣総理大臣が指定する行政機関。
(例：内閣府・警察庁・金融庁機関・外務省・国土交通省・厚生労働省・防衛相等)
- ③ 指定地方行政機関：災害対策基本法に基づき、指定行政機関の地方支分部局のうち、内閣総理大臣が指定する行政機関
- ④ 指定地方行政機関のうち地方ブロック機関：(例：管区警察局・地方整備局・管区气象台・地方厚生局・地方防衛局等)
- ⑤ 指定地方行政機関のうち※3以外：(例：機動隊・河川国道事務所・開発建設部・地方气象台・海上保安監部等)

第5章 諸室の計画

1 施設構成の考え方

第2章の調査により、當麻文化会館は適宜補修や整備を実施することで、今後も長期的に利用可能な建物であることがわかりました。一方、抽出された課題を解決し全く新しい施設とするためには、現状の使い方をベースとした改装計画ではなく、各機能の規模や配置を全面的に一新する計画が適切であると考えます。面積が不足する場合は、必要に応じて増築を行い、建物の骨格を利用しながら安全性や機能性等を確保した、大規模な改修計画とします。

(1) 機能の融合と面積の最適化

これまで行われてきた、多様な活動のための空間を維持しながらも、面積を最適化する必要があります。様々な用途に使用できるスペースと、専門的な用途に必要な機能を有するスペースを整理し、特定の用途のみで使用する必要がない、汎用性の高い部屋を増やすことにより、面積の効率化を図ります。



機能	対応 (案)
多機能化	<ul style="list-style-type: none"> 多目的室については、音楽や軽運動、創作活動が可能な仕様とする (防音・防振・防汚・防水性等を一定程度確保) 調理室や工作室等の専門的な部屋を、様々な用途に活用できるしつらえ 多目的ホールは、発表や講演活動等への対応を可能とするためにフラットな床と可動座席とする 等
可変性の確保	<ul style="list-style-type: none"> 可動間仕切り壁の設置による利用人数や予約状況に応じた室構成への対応 廊下と連続した利用を可能とする、諸室のオープン性の確保 等
高機能化	<ul style="list-style-type: none"> 動画配信等を可能とする公衆無線 LAN 環境等の整備 照明の調光や映像機器の利用を可能とするしつらえ 等

(2) 従来の空間に新しい要素を混ぜる

複合化のメリットを生かし、従来の機能は維持しながら、新しい機能が混ざり合い、共存した計画とします。例えば、静かで集中できる閲覧室とギャラリー、又は多目的に使える部屋と、オープンなイベントスペースや、子どもたちがのびのびと動き回れるスペースとの共存等が考えられます。



シーンに合わせた² 多目的に使える場所
可動式間仕切り

(3) 複合施設における本の役割

複合施設において、本はすべての機能をつなぐ重要な要素と考えます。館内では本を様々な位置にレイアウトし、図書館以外の目的で訪れた人も、自然と本を手にとれるような計画を検討します。館内で開催されるイベントや生涯学習のプログラムと関連した本を誰もが手に取りやすい場所に展示する等、本がいたるところに染み出し、様々な出会いを創出します。



図書の特設コーナー³



館内イベント⁴

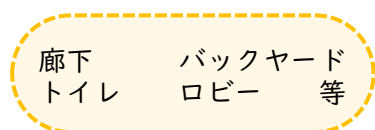
2 共用スペースの充実

生涯学習・ホール・図書館・庁舎それぞれの共用スペースを共有化し、面積の最適化を行います。図書館においては、本の選別により蔵書数を見直すことで新陳代謝を促し、面積を最適化します。それらの余白により豊かな共用スペースをつくり、子どもたちが自由に過ごせる場、多世代が交流できる場、活発な市民活動を促すイベントスペース等、新しい空間を充実させることを検討します。

新しい空間では、子どもの遊び場や自由に飲食や会話を楽しめるスペース等の多世代が利用可能なコミュニティスペースを想定しています。このスペースの運営を行う事業者については、民間活力の導入を含めた検討を行い、今後運営計画と合わせて検討します。

< 共用スペース >

< 共用スペースの活用 = 新しい空間の充実 >



共用スペースの共有化による面積の最適化



子どもたちが遊べる新しい空間



市民活動を行うイベントスペース



活動と人をつなぐギャラリー

3 諸室の計画

各施設の利用状況や今後の見通しを踏まえ、改修後の諸室の機能や大きさを次のように整理しました。現在の利用状況は部屋の予約履歴等を参照し、分析したものです。改修後の数値は、施設の規模を想定した現時点での試算であり、設計段階で変更となる場合があります。

(1) ホール部門

ホール利用は、100人以下の利用が全体の64%、200人以下の利用では71%を占めています。30人前後をピークに50人以下の利用が大半となるため、例えば、室内を可動間仕切りで3分割にすることにより、少人数で同時に使用可能な部屋とすることも考えられます。また、防音の部屋とすることで、ダンスや軽音等にも利用できます。

用途	現施設	現室名	現 状	面積
ホール	當麻文化会館	ホール	30～50人以下の利用が多く、満席になるイベントが少ない	570 m ²
		控室		38 m ²

規模等の適正・共用化

用途	室名	面積	定員	想定される用途・備考	想定稼働率
ホール	多目的スタジオ	250 m ²	200人	音楽・講演・運動	40%

(2) 生涯学習部門

現在ある会議室や文化会館の諸室は、改修後の複合施設において部屋数が減りますが、機能の最適化と共用化により、概ね現在と同様の利用が維持できると考えています。さらに、間仕切りや貸出時間枠の工夫等を加えると、これまで以上に多くの方が利用できると想定しています。

用途	現施設	現室名	現 状	面積
会議	當麻文化 会館	2階大研修室	可動間仕切りを使用せず広い部屋を少人数で利用している	132 m ²
		2階中研修室		84 m ²
		2階小研修室		40 m ²
		2階団体交流室		31 m ²
	當麻 図書館	2階会議室	稼働率が50%以下であり、予約が取りにくい状況ではない	115 m ²
		2階ミーティングルーム		25 m ²
	當麻庁舎	1階会議室	申請・選挙事務等のスペースとして利用する時期は、利用率は高い	20 m ²
生涯学習	當麻文化 会館	3階音楽室	稼働率が40%を超えており、高い利用率となっている	74 m ²
		3階セミナー室		63 m ²
		3階メディアルーム	平均利用率が12%以下となっており、 <u>特定の設備を備えた室は利用率が特に低い傾向にある</u>	63 m ²
		3階調理実習室		84 m ²
		3階陶芸室		52 m ²
		3階創作室		58 m ²
		3階和室		59 m ²

規模等の適正・共用化

用途	室名	面積	定員	想定される用途・備考	想定稼働率
生涯学習 多目的	共用活動スペース1	150 m ²	80人	会議・講演等	40%
	共用活動スペース2	80 m ²	30人	会議・その他	40%
	共用活動スペース3	50 m ²	20人	会議・その他	50%
	ミーティングルーム1	75 m ²	30人	会議・その他	65%
	ミーティングルーム2	20 m ²	8人	会議・その他	40%
	ミーティングルーム3	20 m ²	8人	会議・その他	40%
	たたみスペース	60 m ²	20人	茶道・着付け・将棋等	30%
	ものづくり工房	60 m ²	20人	工作・陶芸・絵画等	35%
	キッチンスペース	40 m ²	20人	調理・その他交流等	15%

<共用化の例>

共用活動スペース	ミーティングルーム	たたみスペース	ものづくり工房	キッチンスペース
↓ 可動間仕切りを設けることで、他室が満室のときでも使用可能に	↓ 庁舎や図書館の会議等で利用する他、休日・夜間は一般開放・自習室として使用可能に	↓ 市民活動に使用しないときは、閲覧室や休憩室、読み聞かせの場としても使用可能に	↓ 使用時でも、共用活動スペースに流し台を設けることで、華道や絵画でも使用可能に	↓ 料理教室が行われないときは、ランチルームや集いの場としても使用可能に

(3) 図書館部門

現在の約100,000冊の蔵書(開架約70,000冊、閉架約30,000冊)については、汚破損の進行したものも多くあり、新陳代謝を高めつつ、新しい複合施設へ移設を行います。

ゆったりとした書架配置とすることで回遊性を高め、閲覧席の充実や空室の開放により、心地よく滞在できる空間とします。閉架書架の一部を一般開放する等、現状と変わらない検索性を維持する方法についても検討します。

また、選書や展示方法等の本の差し出し方を整えることで、ただ多くの本を詰め込むのではなく、より手に届きやすくなるよう工夫を行います。

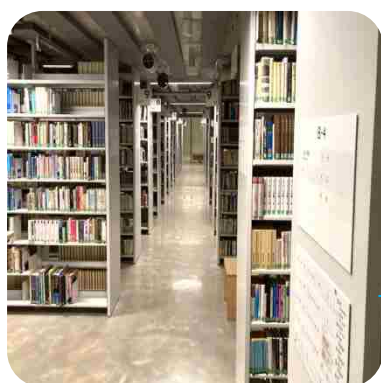
共用の閲覧スペースについては、会話や軽飲食、自習等が可能な、今までよりもひろがれた運用について検討する予定です。

用途	現施設	現室名	現状	面積
図書館	当麻図書館	1階開架書架	開架書架面積と蔵書数のバランスで過	175 m ²
		1階児童開架室	密なフロアとなっている	
		1階閲覧席	閲覧スペースが十分でないため、読書	200 m ²
		1階ブライジングコーナー	のために来館する割合が低い	
		屋外閉架書架		25 m ²

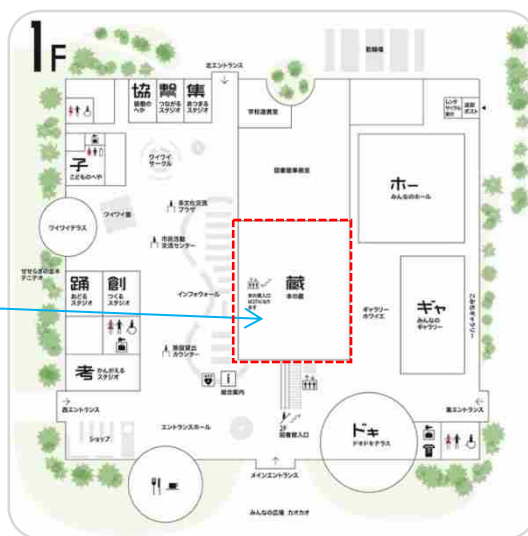
規模等の適正・共用化

用途	室名	面積	定員	想定される用途・備考
図書館	一般図書エリア	420 m ²	70席	(閲覧スペース等含む) 20,000冊
	児童図書エリア	240 m ²		(閲覧スペース等含む) 15,000冊
	閉架書架(集密)	70 m ²		40,000冊
	閉架書架(一般)	150 m ²		30,000冊
	静かなスペース	40 m ²	20席	静かに読書、学習をするスペース
	対面朗読室	10 m ²		

<閉架書架の一部を一般開放した参考事例>⑥



みんなの森
ぎふメディアコスモス



【配置図】

⑥ 配置図「https://g-mediacosmos.jp/facilities/rental/rental_scheme.html」

(4) 庁舎部門

総合窓口を利便性の高い場所に確保しつつ、執務スペースを適正化します。共用スペースについては、共用できるものも多くあり、誰もが使いやすい設備に配慮しつつ最適化します。

用途	現施設	現室名	現 状	面積
庁舎関係	當麻庁舎	執務室	倉庫、執務スペースに余裕がない	130 m ²
		教育長室		20 m ²
		待合スペース	個別の相談室・会議室の不足や窓口の記載・待合スペースが狭く、プライバシーの確保が十分でない	40 m ²
		臨時窓口		50 m ²
		相談スペース		30 m ²
その他	當麻文化会館	適応指導教室		80 m ²

規模等の適正・共用化

用途	室名	面積	定員	想定される用途・備考
庁舎関係	執務スペース (庁舎用会議室を含む)	210 m ²	30人	国交省「新営一般庁舎面積算出基準」により算出
	教育長室	30 m ²		
	総合窓口課	40 m ²	9人	現状程度
	待合スペース	50 m ²		現状程度
	臨時窓口コーナー	10 m ²		現状程度
	相談スペース	25 m ²		現状程度、プライバシーに配慮する
その他	適応指導教室	80 m ²		現状程度

(5) 共用部・総計

複合化により生まれる豊かな共用スペースには、新しい空間として、市民ニーズに応える新たな機能を付加できると想定しています。

子どもたちが天候に左右されずに遊べるスペースや、カフェ等の憩いのスペース等、市民にひらかれた新しい場所についても検討します。

図書館・文化会館・庁舎	面積
3施設のその他面積	2622 m ²
3施設の面積合計	4880 m ²

- ・共有部の集約
- ・諸室の整理
- ・ホールの最適化 等

約 880 m²減

用途	室名	面積	想定される用途・備考
共用部	事務エリア	140 m ²	生涯学習用・図書用
	トイレ・給湯室・授乳室等	260 m ²	
	倉庫等	230 m ²	
	エントランス等	270 m ²	エレベーターホール等含む
	新しい空間	250 m ²	子育て支援スペース、カフェ等のコミュニティスペース、ギャラリー等
小計		3330 m ²	
廊下・機械室		670 m ²	
合計		4000 m ²	

現當麻文化会館の延床面積 3554.8 m²から約 500 m²の増床を含めて検討します。

改修後の諸室

用途	室名	規模	定員	想定用途・規模	想定稼働率
ホール	多目的スタジオ	250 m ²	200人	音楽・講演・運動	40%
生涯学習多目的	共用活動スペース1	150 m ²	80人	会議・講演等	40%
	共用活動スペース2	80 m ²	30人	会議・その他	40%
	共用活動スペース3	50 m ²	20人	会議・その他	50%
	ミーティングルーム1	75 m ²	30人	会議・その他	65%
	ミーティングルーム2	20 m ²	8人	会議・その他	40%
	ミーティングルーム3	20 m ²	8人	会議・その他	40%
	たたみスペース	60 m ²	20人	茶道・着付け・将棋等	30%
	ものづくり工房	60 m ²	20人	工作・陶芸・絵画等	35%
	キッチンスペース	40 m ²	20人	調理・その他交流等	15%
図書館	一般図書エリア	420 m ²	70席	(閲覧スペース等含む) 20,000冊	
	児童図書エリア	240 m ²		(閲覧スペース等含む) 15,000冊	
	閉架書架(集密)	70 m ²		40,000冊	
	閉架書架(一般)	150 m ²		30,000冊	
	静かなスペース	40 m ²	20席	静かに読書、学習をするスペース	
	対面朗読室	10 m ²			
庁舎関係	執務スペース (庁舎用会議室を含む)	210 m ²	30人	国交省「新営一般庁舎面積算出基準」 により算出	
	教育長室	30 m ²			
	総合窓口課	40 m ²	9人	現状程度	
	待合スペース	50 m ²		現状程度	
	臨時窓口コーナー	10 m ²		現状程度	
	相談スペース	25 m ²		現状程度、プライバシーに配慮する	
他	適応指導教室	80 m ²		現状程度	
共用部	各事務室等	140 m ²		生涯学習用、図書用	
	トイレ・給湯室 ・授乳室等	260 m ²			
	倉庫等	230 m ²			
	エントランス	270 m ²		エレベーターホール等含む	
	新しい空間	250 m ²		子育て支援スペース、カフェ等の コミュニティスペース、ギャラリー等	

小計	3330 m ²
廊下・機械室	670 m ²

※今後も設計段階での提案を柔軟に反映し、
より良い計画を目指します。

合計	4000 m ²
----	---------------------

4 参考事例

生涯学習や図書館等、新しい複合施設で参考となる、諸室の使用法の参考事例を次に記載します。

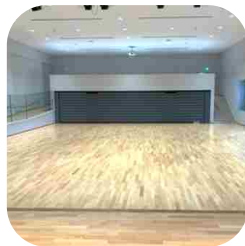
多目的（運動・音楽）

<海南 nobinos⁵>



ホール
(可動座席設置時)

<海南 nobinos>



ホール
(可動座席収納時)

<海南 nobinos>



多目的 ⇄ 運動

<ホール>

- イベント時は可動式の座席を動かし、観客席を設置する
- 通常は体を動かさず体育館として利用できる

<運動>

- 生涯学習等を行う多目的室として使用できる
- 机を片付けて、ボルダリング等を使った軽運動ができる

専門的な部屋

<三條市立図書館
まちやま⁶>



和室
↓
閲覧スペース

<豊橋市まちなか図書館⁷>



工作室
↓
フリーのDIY室

<海南 nobinos⁸>



内部活動が見える
間仕切り

<延岡市駅前複合施設
エンクロス>



調理室
↓
ランチスペース

<和室>

- 華道や書道等で利用し、使われていないときは、休憩や閲覧スペースとして利用できる

<工芸室>

- 陶芸や工作等で利用する
- 利用していないときは自由にDIY室として利用でき、作成した作品の鑑賞も可能

<可動間仕切り>

- ワンルームの部屋を可動間仕切りで適切な規模に仕切ること、多様な使い方ができる
- 遮音性能が高い間仕切りを設置することで、隣の音が気にならずに活動ができる

<調理室>

- 通常は料理教室等を行い、利用していないときは、ランチスペースとして使用できる

図書館

<那須塩原市図書館
みるる>



手に取りたくなる
本のレイアウト

<丸亀市市民交流活動
センター マルタス⁹>



おはなしの部屋
↓
子ども図書

<みんなの森
ぎふメディアコスモス>



賑やかな閲覧スペース
↓
広場

<石川県立図書館¹⁰>



静かな閲覧
学習スペース

<本のレイアウト>

- 表紙を見せる展示方法とすることで、本を手にする機会を増やすことができる

<おはなしの部屋>

- 様々な家具に座り、自由におはなしを聞くことができる
- 子ども図書の閲覧スペースとしても利用できる

<閲覧スペース>

- 飲食や会話が可能な賑やかな閲覧スペースと従来型の壁で仕切られた、静かな閲覧スペースの2つを設けることで、状況に合わせた使い方ができる

庁舎

<葛城市役所 當麻庁舎¹¹>



<ひらかれた庁舎>

- 従来の機能を継続させつつ、利便性の高い窓口機能
- 誰もが使いやすい行政サービスに努める
- 有事には防災時の拠点としての機能を確保

新しい空間

<須賀川市民交流センター
tette¹²>



カフェ等の
コミュニティスペース

<豊橋市まちなか図書館¹³>



活動が共有できる空間

<海南 nobinos>



小さな子どもたちにも
対応した遊び場

<ゆとりのある空間>

- 通常時は市民が憩い交流する広場として使用できる
- イベントの際には仮設ブース等を設置し、ゆとりのある使い方が可能

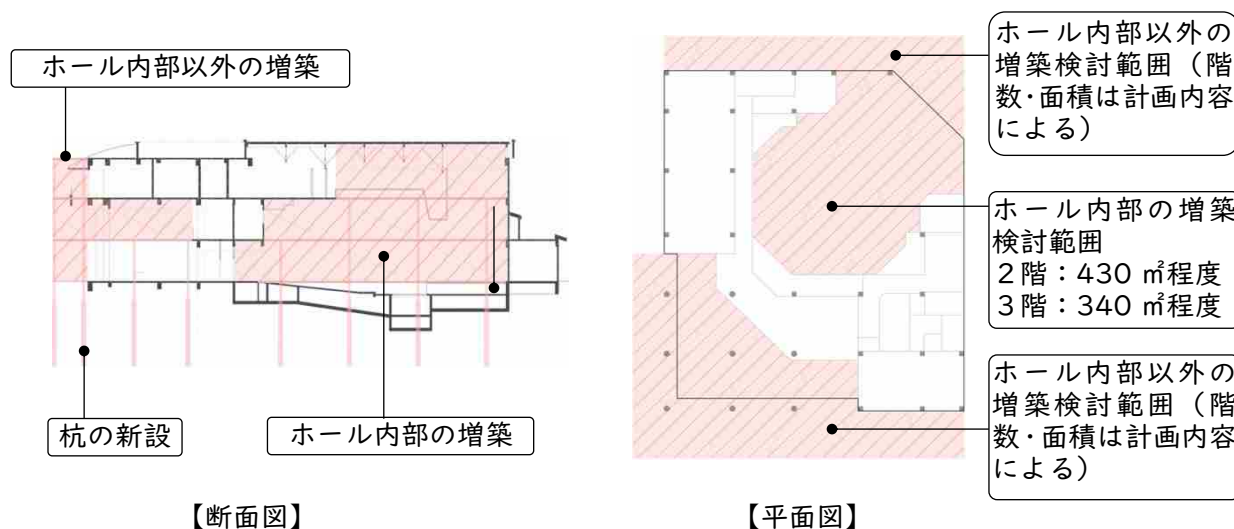
<図書館と遊び場の融合>

- 図書館に子どもの遊び場を設けることで、体を動かした学びも可能
- 親が用事を済ませる間の子どもの居場所をつくる

5 増床の方法

(1) 増床・増築可能な箇所

必要面積の4000㎡程度に対して、當麻文化会館の延床面積は3554.8㎡で、500㎡程度の面積の増加が必要です。増築する箇所は屋外面への増築と、屋内はホール内部やエントランス吹き抜け部への増築が考えられます。それぞれのメリット・デメリットを踏まえ、設計段階で合理的な増床・増築方法を検討する必要があります。



(2) 増床・増築パターンの比較

広さや天井高が特異な多目的スタジオは、その配置が全体構成に大きな影響を与えます。多目的スタジオの配置を換えた以下の4案により、増床・増築の方法を比較検討します。(増床パターン比較表 P.40)

- A案：既存ホールを再利用し、すべて屋外増築する案
- B案：既存ホール内での2階の増床と屋外増築する案
- C案：既存ホール内での3階のみの増床と屋外増築する案
- D案：屋外増築を行わず、既存ホールに2、3階の2層分を増床する案

(3) 検討結果及び今後の検討方針

増床・増築パターンの比較から、多目的スタジオの設置階や天井高等の違いにより、平面計画や構造形式が変わり、コストにも影響することがわかりました。複合化によって課題を解決しつつ、維持管理費を含めたコストの検証も行うことにより、長期にわたって使用し続けることが可能な建物を計画するために、設計段階においては、設計者による更なる技術的な意見を踏まえ、最適な手法を選択したいと考えています。

【増床パターン比較表】

	A	B	C	D
	<p>ホール内に1層(1階)増築 面積不足分は屋外増築</p> <ul style="list-style-type: none"> 多目的スタジアムに必要な天井高を確保できる。 多目的スタジアムが2階のため、大人数が短時間で移動する際の対策が必要となる。(通路幅、E・V増設。) 増築部分が屋内・屋外にあり、積載荷重が大きい配置場所には制約があるため、二階に合わせた配置計画が行いやすい。 吹抜等を比較的设置しやすく、空間構成の幅が広がる。 	<p>ホール内に1層(2階)増築 面積不足分は屋外増築</p> <ul style="list-style-type: none"> 多目的スタジアムに必要な天井高を確保できる。 多目的スタジアムが1階のため、大人数が短時間で移動する際の対策が取りやすい。 増築部分が屋内・屋外にあるが、多目的スタジアムの上部には積載荷重が大きい集密書架等の配置には制約があるため、Aに比べて配置計画の自由度は限定される。 増築部分の3階は柱のない空間となるため、レイアウトの自由度が高い。 吹抜等を比較的设置しやすく、空間構成の幅が広がる。 	<p>ホール内に2層増築 屋外増築はなし</p> <ul style="list-style-type: none"> 既存の階高が決まっているため、天井高を高くする必要がある。また、架構計画は1階に限定される。また、梁の配置が確保できなくなる可能性がある。 多目的スタジアムが1階のため、大人数が短時間で移動する際の対策が取りやすい。 増築部分の3階は柱のない空間となるため、レイアウトの自由度が高い。 A・Bに比べ、吹抜等の設置が限定される、空間構成の幅が限定される。 	<p>既存ホール再利用 全て屋外の増築</p> <ul style="list-style-type: none"> 多目的スタジアムが1階のため、大人数が短時間で移動する際の対策が取りやすい。 集密書架等の配置が屋外増築した部分等に限定されるため、配置計画の自由度が限定される。 来館者にとって心地の良い外部に面した空間が少なくなくなる可能性がある。 現ホール内に設置する多目的スタジアムを除く部分には天井の高い部屋となる等、空間を効果的に活用できない可能性がある。
計画	○	◎	○	△
屋外空間	○	○	◎	△
構造	○	○	△	◎
施工	○	○	△	◎
コスト	○	○	△	○
	<p>屋内・屋外の増築のバランスを検討することによって必要な植栽・駐車場・テラス等の屋外施設を計画できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 屋外増築箇所を選択肢があるため、圧迫感を低減しつつ増築できる可能性がある。 現在の外壁工事の範囲を減らすことが比較的容易である。 	<p>屋内・屋外の増築のバランスを検討することによって必要な植栽・駐車場・テラス等の屋外施設を計画できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 屋外増築箇所を選択肢があるため、圧迫感を低減しつつ増築できる可能性がある。 現在の外壁工事の範囲を減らすことが比較的容易である。 	<p>屋外増築がないため、屋外空間(植栽・駐車場・テラス等)の自由度がある程度高く、また、圧迫感が現状と変わらない。</p> <ul style="list-style-type: none"> 現在の外壁工事の範囲を減らすことが容易である。 	<p>屋外増築が大きいため、屋外空間(植栽・駐車場・テラス等)の自由度が少なく、また、圧迫感が強い。</p> <ul style="list-style-type: none"> 屋外増築が大きいため、外壁改修範囲の自由度が限定される。
	<p>大空間である多目的スタジアムが2階にあるため、構造上有利な形式である。</p> <ul style="list-style-type: none"> 屋内増築規模を屋外増築とのバランスで検討でき、構造的難易度が比較的低い項目が少なくない。 屋外増築は、一般的な構造形式が想定される。 	<p>大空間である多目的スタジアムが1階にあるため、設置位置によっては梁等大きな構造的な配慮が必要となる可能性がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> 屋内増築規模を屋外増築とのバランスで検討でき、構造的難易度が比較的低い項目が少なくない。 屋外増築は、一般的な構造形式が想定される。 	<p>大空間である多目的スタジアムが1階にあるため、設置位置によっては梁等大きな構造的な配慮が必要となる可能性がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> 屋内増築規模が大きいため、増築には構造的な配慮がかなり必要となる。 	<p>屋外増築は、一般的な構造形式が想定される。</p>
	<p>既存ホール内での躯体工事は、施工方法の選定、仮設架台設置の範囲を考慮した計画とできる可能性がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> 屋外増築部分が見込まれる。 等々の確保が比較的容易に施工難易度は低い。 	<p>既存ホール内での躯体工事は、施工方法の選定、仮設架台設置の範囲を考慮した計画とできる可能性がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> 屋外増築部分が見込まれる。 等々の確保が比較的容易に施工難易度は低い。 	<p>既存ホール内での躯体工事が多く、施工方法の選定、仮設架台設置の範囲を考慮した計画とできる可能性がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> 屋外増築部分が見込まれる。 等々の確保が比較的容易に施工難易度は低い。 	<p>屋外増築のみのため、施工方法は一般的な工法が想定されるが、作業エリア等の確保が難しい。</p>
	<p>一般的にはDよりも増築コストは高額だが、屋内増築範囲をコスト検討しながら進めることができる。避難経路・利便性等の観点から、階段・E・Vの増設が必要となり、コスト増が見込まれる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 維持管理コストを調整しながら、建物のコストを調整することが可能。 	<p>一般的にはDよりも増築コストは高額だが、屋内増築範囲をコスト検討しながら進めることができる。避難経路・利便性等の観点から、階段・E・Vの増設が必要となり、コスト増が見込まれる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 維持管理コストを調整しながら、建物のコストを調整することが可能。 	<p>屋内増築が広いため、躯体工事のコストが高額となる可能性がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> 建物のボリュームが小さいため、維持管理コストが低い。 	<p>屋内増築がないため、他に比べてコストは低い。</p> <ul style="list-style-type: none"> 建物のボリュームが高いため、維持管理コストが高くなる可能性がある。

6 機能の配置バリエーション

これまでの検討内容を踏まえ、当麻複合施設の機能配置のバリエーション案を以下に示します。ただし、これらは現時点でのイメージであり、今後の設計又は運用計画段階で変更になる可能性があります。

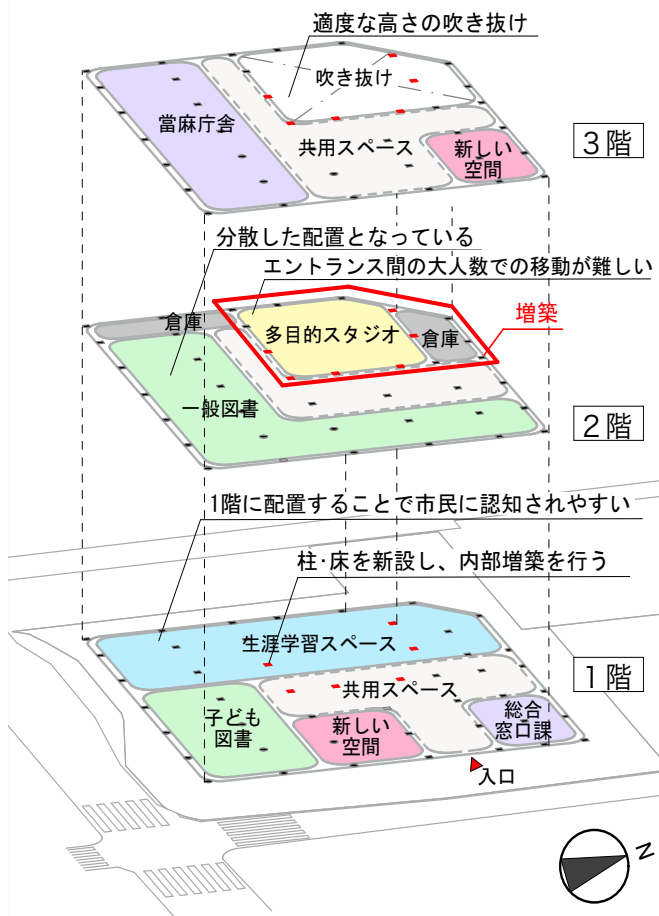
屋内増築（増床）を行った場合の配置

<メリット>

- ・多目的ホールの規模に適した吹き抜けのサイズにできる

<デメリット>

- ・多目的ホール増築部分の柱は、既存の杭を避けた位置に柱を立てる。そのため、柱の配置が不均等になる可能性がある
- ・多目的ホール増築部分への重機や部材の搬入等に、課題が生じる場合がある



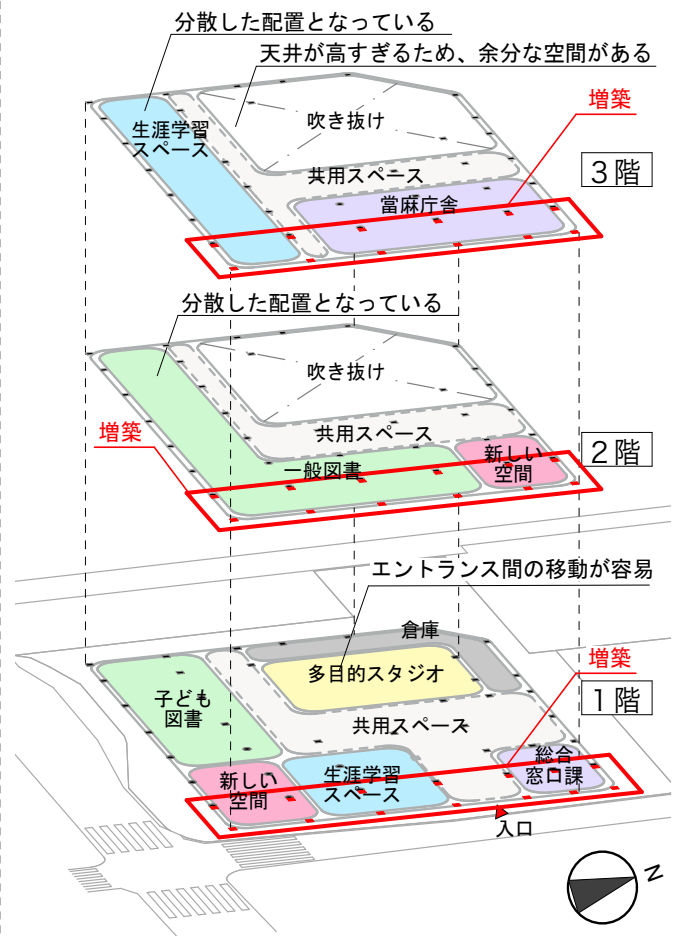
屋外増築を行った場合の配置案

<メリット>

- ・難易度の高い工事が少ない
- ・道路に面した部分の増築であるため、施工性が高い

<デメリット>

- ・既存の吹き抜けが残るため、2・3階のまとまりがある空間を確保しにくい
- ・高さ制限等への配慮が必要
- ・道路側へ増築するため、圧迫感がある



7 外構計画

(1) 計画概要

外構計画は、新しい複合施設と旧當麻庁舎跡地も含めた検討を行います。旧當麻庁舎跡地は、施設周辺の駐車場として利用する他、倉庫等の設置の必要性も含め検討します。なお、旧當麻庁舎跡地の余剰地については民間活力の導入も含め検討します。計画内容は、今後の設計又は運営計画段階において変更になる可能性があります。

【外構計画リスト】

	計画地	台数	備考	面積
一般駐車場	旧當麻庁舎跡地	150 台程度	農村広場用を含む	4000 m ² 程度
障がい者用駐車場	エントランス付近	2 台程度		40 m ² 程度
サービス用駐車場	複合施設敷地内	2 台程度		40 m ² 程度
駐輪場	農村広場南側	90 台程度	農村広場用を含む	300 m ² 程度

(2) 敷地内

敷地内は来館者と管理者の動線を明確に分けた計画とします。エントランス付近には緑地と障がい者用駐車場の整備を検討し、誰もが気軽に訪れやすい屋外空間とします。

(3) 旧當麻庁舎跡地

新しい複合施設や農村広場利用者に必要な駐車場・駐輪場の広さを確保します。駐車場150台程度、駐輪場90台程度とします。その他、倉庫等を確保する計画とします。

それ以外のスペースは、直営と民間活力の導入の両面で使い方を検討します。直営の場合は、子どもの遊び場やイベント等を開催できる広場を検討します。民間活用の場合は、生活利便施設等の賑わいを創出するような用途での活用を検討します。今後、民間活用の可能性の調査等を行い、跡地の利用方法を検討します。

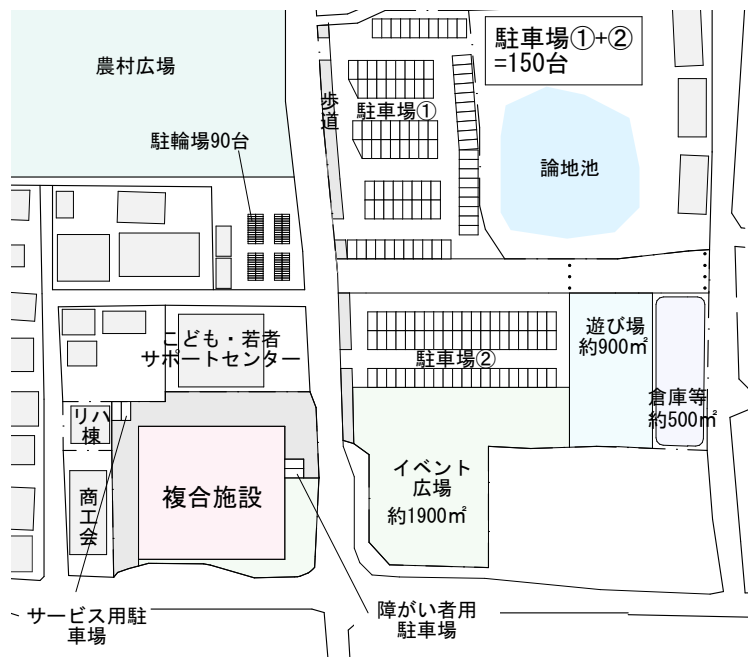
ア. 敷地全体を直営で整備する場合の例

<メリット>

- 周辺情報に合わせたレイアウトが可能
- イベント広場や子どもの遊び場を設けた、広がりのある場をつくれる
- 複合施設の敷地に設けられない広場を確保することができる

<デメリット>

- 維持管理に多額の費用が必要
- イベント広場の利用方法等、新たな活用方法の検討が必要



※設計又は運営計画の進捗に合わせ、より効率的・効果的な配置を検討します。

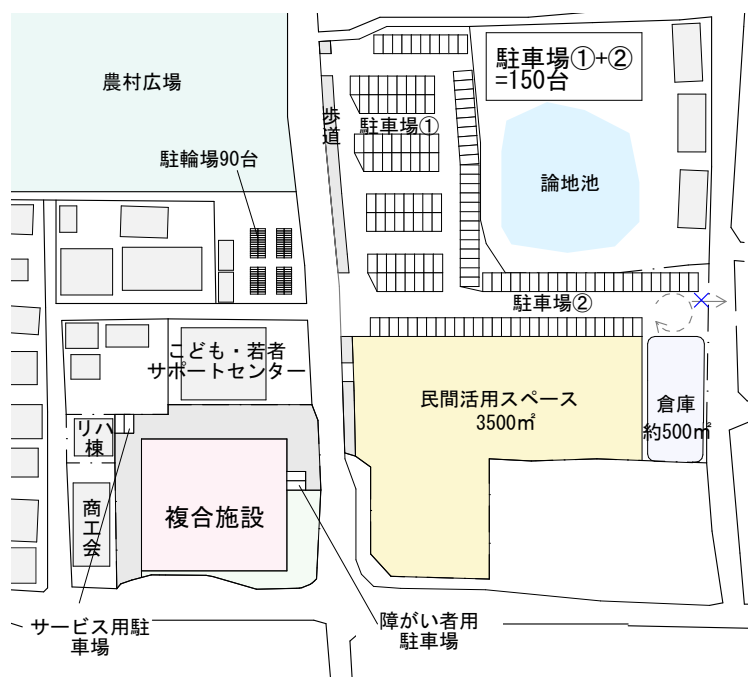
イ. 敷地の一部に民間施設（生活利便施設）を導入する場合の例

<メリット>

- 周辺住民等や施設利用者の利便性が向上する
- 維持管理費の低減が見込める

<デメリット>

- 市の施設と生活利便施設の駐車場が混在するため、利用者が混乱する可能性がある
- 広場等の新たな屋外空間が設置しにくい
- 民間施設の位置により、来館者の駐車場の位置に制約が生まれる可能性がある



※設計又は運営計画の進捗、並びに民間の意向を踏まえ、より効率的・効果的な配置を検討します。

8 事業費

(1) 概算事業費の試算

前項までの検討内容に基づき、概算事業費を試算しました。算出に当たっては、全国と同規模・類似施設の価格情報データベース等¹⁴を参照していますが、今後も、建設資材等高騰の影響を受ける可能性があることから、設計又は運営検討段階において再度精査していくこととします。なお、跡地の費用は直営で整備した場合の費用の試算です。

【概算事業費（税込み）】

複合施設	委託費	調査、設計・監理費、管理運営検討費等	2億円
	工事費	増築工事、改修工事、外構工事、家具工事等	20億円
	その他	備品搬入費、引っ越し費用等	1億円
		小計	23億円
跡地	委託費	調査、測量、設計費等	1億円
	工事費	敷地整備、倉庫建設費、解体費等	7億円
		小計	8億円
		合計	31億円

※令和5(2023)年3月時点での概算であり、今後の社会情勢の変化に伴い、変更となる場合があります。

(2) 財源の確保

本事業の財源は、公用施設を除き、社会資本整備総合交付金の活用を検討しています。補助対象外の費用については自己財源が必要となるため、地方債や基金を活用します。また、今後の財政運営に支障を来さないよう、財源負担の軽減に努めます。

第6章 管理・運営の考え方

再編整備後の事業・サービスの考え方を次のとおり整理します。引き続き関連施策等と連携しながら、事業・サービスの内容や効率的・効果的な提供手法について検討を進めていきます。

1 従来の管理・運営の継続

これまで各施設で実施している事業・サービスの継続を基本とします。

加えて、より多くの市民にとって活用しやすい施設となるよう、これまでにない管理・運営導入の可否についても検討します。

【これまでにない事業・サービスに対する市民意見の例】

- 青空市、新鮮食品、野菜等のフリーマーケットができると良い
- 展示スペースは大きさを自在にでき、明るい場所にしてほしい
- 観光（當麻寺や二上山、竹内街道）目的の人も利用できるような施設として文化的な面を充実してはどうかと思う
- 市の窓口としてはワンストップでIT端末等を使い、効率よく手続きが行える機能を取り入れてみてはどうかと思う
- 遊具付きの図書館がほしい
- 若者が集うような施設、カフェなど娯楽を充実してほしい
- 予約手続きなしで入れる勉強部屋がほしい
- 親同士が子育てについて話し合える子育て相談施設
- 雨のときでも、遊べる、屋根のある広場が良い

2 複合化を生かした管理・運営の推進

賑わいやつながり、地域への愛着を生み出すサービスの充実や、施設をスムーズに利用できる事業・サービスの提供等により、同一建物内に設置されていることのメリットを生かした事業・サービスを推進します。

- これまで施設内になかったスペース等を活用した、各施設の主催事業の充実
- 各施設で活動する団体・サークルの連携・交流の促進
- 各施設の枠を超えた事業・イベントの開催
- 市内の特色ある取組や地域の文化や歴史等の地域情報の発信強化
- 利用者の受付・相談窓口のワンストップ化
- 子育て支援に関する窓口との連携強化
- 各施設の利用時間や利用料金、利用方法、利用のルール等の見直し・統一化 等

3 幅広い利用者層に対応した管理・運営の推進

地域特性を踏まえ、これまでの施設の利用者に加え、子どもたちや子育て世代等の幅広い利用者層に対応した事業・サービスを推進します。

- 諸室の個人利用検討
- 諸室の貸出時間の見直し
- 諸室のタイムシェア化
- 飲食等の可能なスペースの設定、カフェや催し物等による飲食の検討、出前講座等のアウトリーチの充実
- 新庄図書館や学校図書館との連携の検討
- 子どもたちや子育て世代から高齢者世代等、多世代を対象とした新しい事業・サービスの充実
- 複合施設周辺エリア活用計画と連携した、多彩なイベントの実施 等

4 ICTを活用した事業・サービスの推進

利用者が容易に欲しい情報へのアクセスや外部との連携・交流等ができるようICTを活用した事業・サービスを推進します。

- 場所の離れた職員による、オンラインでの顔の見える行政窓口対応
- 新庄図書館、新庄文化会館、中央公民館等との情報交流や連携の可能性
- 公衆無線LAN回線サービスの提供
- 諸室空き情報のリアルタイム配信実施
- 遠隔地や複数室間での会議や研修の開催
- オンラインでの各種講座の配信 等

5 管理運営方針の基本的な考え方

管理運営方針について、施設の設置目的、位置づけ及び課題を踏まえつつ、行政責任の確保に留意するとともに、利用者である市民へのサービス向上と効率的な管理運営のあり方を総合的に検討し、直営による管理か、指定管理者制度^⑦による管理等について判断します。

多様化する市民ニーズに、より効果的かつ効率的に対応するため、民間のノウハウの活用により、直営で管理するよりも、市民が享受するサービスの更なる向上や施設の管理運営コストの削減が達成できると判断した場合は、指定管理者制度へ移行することが効果的であると考えます。各運営手法の一般論による比較表は下記のとおりです。今後、計画内容と合わせて検討を進めます。

【直営・指定管理の比較表】

	メリット	デメリット
直営	<ul style="list-style-type: none"> ●教育基本法、社会教育法、図書館法の下で、誰にも平等で公平なサービスを提供することが可能 ●施設での課題や市民の意見を、他の行政政策に反映することが可能 ●運営のノウハウが市に蓄積される 	<ul style="list-style-type: none"> ●時代に合った新たなサービスを実施する際に、専門人材がおらず、早期に対応することができない ●司書職での採用等、専門人材の確保が困難 ●市職員のコストが高い
指定管理	<ul style="list-style-type: none"> ●新たなトレンドサービスに素早く対応可能 ●開館日数や開館時間の大幅な拡大 ●競争原理や経営的視点によるコストの縮減 ●民間のノウハウによるサービス改善サイクルの確立 ●人件費コストが低く、柔軟な職員配置が可能 ●司書職等の専門人材を採用しやすい ●市職員がコア業務に特化することが可能 ●カフェの運営、本の販売等賑わいづくりや経済活性化につながる可能性がある 	<ul style="list-style-type: none"> ●市の政策に基づく運営が遵守されているかの確認が必要 ●専門人材の低賃金化問題が懸念される ●市内部における業務ノウハウの希薄化 ●5年程度で指定管理者の交代の可能性が訪れるため、経営や長期的な方針の継続性が担保できない

【制度導入団体の比率】

指定管理者制度	都道府県	指定都市	市区町村
図書館	12.9%	24.5%	19.8%
文化会館	92.2%	88.1%	51.5%
公民館、市民会館	---	54.5%	22.8%

	指定都市	市区	町村
総合窓口	45.0%	19.1%	9.9%

※総務省 地方行政サービス改革の取組状況等に関する調査等（令和3（2021）年4月1日現在）より抜粋

^⑦ 指定管理者制度は、多様化する市民ニーズに、より効果的かつ効率的に対応するため、公共施設の管理に民間の能力を活用することで、市民サービスの向上を図るとともに、経費の縮減等を図ることを目的に、NPO 団体や民間事業者等を含めた地方公共団体が指定する法人その他の団体に、施設の管理及び運営を行わせる手法。平成15（2003）年9月に地方自治法が改正され、「指定管理者制度」が導入されたことにより、個別法の規定の範囲内で、自治体の判断により公共施設の管理運営を NPO 団体や民間事業者等に委ねることが可能となった。

第7章 今後の検討の進め方と整備スケジュール

「第4章 施設のイメージ像・整備方針」や「第5章 諸室の計画」、「第6章 管理・運営の考え方」の考え方にに基づき、今後、ソフト面とハード面の両面の検討を次のとおりに進めます。

1 関連施策と連携した庁内横断的な検討

引き続き、本計画に基づく取組等の関連施策と連携した庁内横断的な検討を進めます。

2 ソフトとハードの一体的な検討

諸室の配置計画の確定や機能、仕様等の具体化に向けて、令和5（2023）年度以降、設計に着手します。

設計と並行して、事業・サービスの内容や効率的・効果的なその提供手法のあり方、供用開始までの地域人材の発掘・人的ネットワークの構築・周辺施設や地域資源と連携したイベントのあり方等を検討するため、管理運営計画の策定に向けた、ソフトとハードの一体的な検討に着手します。

3 市民参加による検討

再編整備後の施設が、これまで利用のなかった方を含め、多くの利用者に愛着を持って長く大切にいただけるよう、引き続き関係団体等における意見交換や市民意見聴取の実施等、市民参加による検討を進めます。

4 民間との対話による検討

効率的・効果的な市民サービスの提供と質の向上の実現に向けて、行政サービスの担い手としての民間の活用や、民間とのパートナーシップによるサービス提供の機会を充実させるため、施設の管理・運営や複合施設周辺エリア活用について、市民ニーズへの対応等に資するアイデアや事業・サービスの提供手法等に関するサウンディング調査等、手法や内容を検討の上、民間との対話による検討を進めます。

5 新型コロナウイルス感染症等への対応の検討

安全・安心に多くの市民に利用していただけるよう、本市の感染症等への取組状況を踏まえ、換気方法やトイレ以外への手洗いの設置等、再編整備後の施設における対応について検討を進めます。

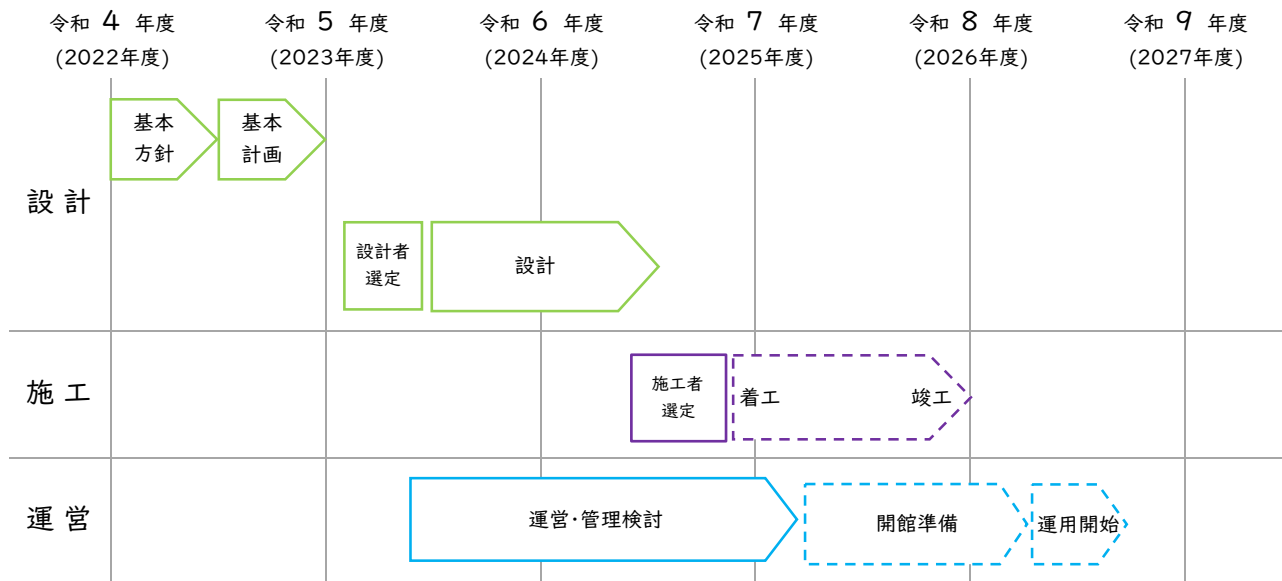
6 整備スケジュール

令和8（2026）年度中の供用開始を目指して、令和5（2023）年度より設計を行い、令和6（2024）年度後半から令和7（2025）年度に改修工事を行う予定です。

また、令和5（2023）年度より、管理運営計画の策定に向けた管理・運営方針の検討作業に着手する予定です。

なお、當麻文化会館は、改修工事期間は休館となるため、改修工事に伴う、休館期間中の他施設の活用や事業・サービスの継続を含む内容等を検討します。

當麻図書館は、移転準備作業に伴い一部機能に制約が発生する可能性はありますが、複合施設への移転までの間、事業・サービスを継続し、移転後、解体工事を含め、當麻複合施設周辺エリア活用に向けた取組として環境を整備する予定です。



— 引用ウェブサイト —

<第4章>

- 1: まちなかりビング北千里ウェブサイト「<https://machikita.jp/about/>」
- 2: 周南市シビック交流センターウェブサイト「<https://www.city.shunan.lg.jp/soshiki/3/38156.html>」
- 3: 豊橋市まちなか図書館「<https://www.library.toyohashi.aichi.jp/facility/machinaka/event/2022/10/post-77.html>」
- 4: 仙台市市民センターウェブサイト
「<https://www.sendai-shimincenter.jp/miyagino/miyaginochuou/kouza/report/hmmr2n000005inpg.html>」
- 5: 石川県立図書館ウェブサイト「<https://www.library.pref.ishikawa.lg.jp/category/facilityintroduction/1006.html>」
- 6: こども本の森中之島ウェブサイト「<https://kodomohonnomori.osaka/facilities/>」

<第5章>

- 1 土佐市文化会館つなでウェブサイト
「<https://www.city.tosa.lg.jp/tsuna-de/info/detail.php?hdnKey=3904>」
- 2 小松ウォールウェブサイト「<https://www.komatsuwall.co.jp/product/move/lightlywall/index.html>」
- 3 那須塩原市図書館ウェブサイト
「<https://www.nasushiobara-library.jp/2022/12/06/一階健康コーナー展示「人生100年時代」/>」
- 4 豊橋市まちなか図書館ウェブサイト「<https://www.library.toyohashi.aichi.jp/facility/machinaka/event/2022/02/de.html>」
- 5・8 海南 nobinos「<https://kainan-nobinos.jp/kaigi>」
- 6 三條市立図書館まぢやまウェブサイト「<https://sanjo-machiyama.jp/library/>」
- 7 豊橋市まちなか図書館ウェブサイト「<https://www.library.toyohashi.aichi.jp/facility/machinaka/event/>」
- 9 丸亀市市民交流活動センター マルタスウェブサイト
「<https://marugame-marutasu.jp/event/kids/entry-7649.html>」
- 10 石川県立図書館ウェブサイト
「<https://www.library.pref.ishikawa.lg.jp/category/facilityintroduction/1002.html>」
- 11 葛城市ウェブサイト「<https://www.city.katsuragi.nara.jp/material/files/group/1/kouhou202201.pdf>」
- 12 須賀川市民交流センター tette ウェブサイト「<https://s-tette.jp/about/005277.html>」
- 13 豊橋市まちなか図書館ウェブサイト「<https://www.library.toyohashi.aichi.jp/facility/machinaka/event/2021/11/post-1.html>」
- 14 財団法人建設物価調査会 ジャパン・ビルディングコスト・インフォメーション (JBCI) の直近の同規模・類似施設の建設費情報を参照し試算。